

Office of

Institutional

Research

KUIS

神田外語大学

I R 年次報告書 2024

Kanda University of International Studies

Institutional Research Annual Report

はじめに（神田外語大学 教育イノベーション研究センター）

本学は、学生の学修成果を把握し、エビデンスに基づく PDCA サイクルを強化するために、教育アセスメントとして 2016 年度から大学 IR コンソーシアム加盟校共通の「学生アンケート調査」を行っています。現在は、「新入生」、「学部在学学生」、「卒業時」、「卒業生（既卒生対象）」「企業」アンケートを実施しています。そして、「文部科学省 全国学生調査」にも参加しています。本報告書では、これらアンケートの分析結果（抜粋）とともに、MJIR（大学情報・機関調査研究会）での発表論文の要旨をご紹介します。

<目次>

P 2、学生アンケート集計結果 — 2023・2024 —（抜粋）

P 14、卒業生アンケート 2024 集計結果（抜粋）

P 16、企業アンケート 2025 年 2 月 集計結果（抜粋）

P 20、卒業時アンケート 2025 年 3 月 集計結果（抜粋）

P 23、新入生アンケート 2025 集計結果（抜粋）

P 25、THE 日本大学ランキング 2025 結果（抜粋）

P 26、大学情報・機関調査研究会（MJIR）発表要旨

P 33、神田外語大学 IR 部門の目的・活動内容（職務分掌）

P 34、神田外語大学 教学マネジメント体制について

P 36、神田外語大学 学長室 IR 推進チームの主な活動記録

IR (Institutional Research) とは「客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること」（山形大学次世代形成・評価開発機構 IR 部門 Web サイトより）です。大学のなかで行われている様々な活動を客観的データに基づいて分析し、データと分析結果を共有することで大学の PDCA サイクルを強化し、業務の改善につなげていく活動です。

学生アンケート集計結果ー 2023・2024 年度ー（抜粋）

●本学における共通学生アンケート実施状況

対 象：学部在学生

調 査 方 法：グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間：約 18～20 分

内 容：IR コンソーシアム共通の項目に、インターンシップや留学関係など、本学独自項目を追加
（授業経験、学習態度、週当たりの学習時間、入学後の能力変化、英語運用能力、大学生活への適応、大学教育・施設への満足度等を調べる間接アセスメント調査）

実施年度	2024 年度	2023 年度
実施期間	9/11～11/6	9/6～11/1
対象者数	4,146	4,106
回答数	1,186	1,285
回答率	28.6%	31.3%
集計結果 U R L	1 年生結果 https://bit.ly/3X1LNWz 上級生(2～4 年生)結果 https://bit.ly/42Sn3Uq	1 年生結果 http://bit.ly/480ysS1 上級生(2～4 年生)結果 http://bit.ly/3v3SrAz
集計結果 Q R コード	1 年生結果  上級生(2～4 年生)結果 	1 年生結果  上級生(2～4 年生)結果 

●大学 IR コンソーシアムについて

大学 IR コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」）は、平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」（GP）に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」を基盤として、同プログラムの代表校である同志社大学、連携校の北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が中心となって、2011 年度にコンソーシアム設置準備委員会を組織し、2012 年 9 月 25 日に正式に発足した組織です。日本の高等教育における IR の必要性の広がりとともに会員校数が増加し、その社会的責任も次第に大きくなってきたことから、2018 年 4 月には、一般社団法人に移行いたしました。現在では、全国の国公立 60 大学前後が加盟しています。

コンソーシアムでは、教学評価体制の基幹をなす IR ネットワークシステムの運営を行い、情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定および学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会を会員校に提供しています。

●共通学生アンケート調査について

共通学生アンケートは、大学 IR コンソーシアムが「学生調査」として設計したもので、授業経験や学習行動、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル、大学教育に対する満足度といった学生の認知的・情緒的側面を重視した調査項目で構成されています。大学 IR コンソーシアム会員校が共通のアンケートを継続して実施することで、学生調査の結果を大学 IR コンソーシアム会員校全体と比較でき、各大学の特徴（強み、弱み）を見出すことができます。

なお、本学では共通学生アンケートに独自項目を追加し、Web による回答で実施しています。

【学部生対象】

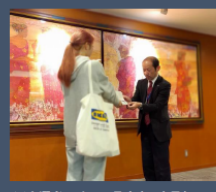
在学生アンケート 2024 実施中

KUIS での学生生活をより良くするための
学生アンケートを 2016 年から実施しています。
ぜひご協力ください。

昨年度は 1285 名からの回答があり、
寄せられた声をもとに、学内施設の改善を行いました（計画中含む）。



スターバックス・ギフト券 5,000 円分が
抽選で、3 名の方に当たります！



※当選者には、11 月末までも目録に
KUIS メールに、ご連絡いたします。

プレゼントのイメージ

回答方法

該当する QR コードを読み取り、Google フォームで回答。
※KUIS メールにもお送りしています。
※回答するときは KUIS アカウント(学籍番号@kuis.ac.jp)へのログインが必要です。

1 年生用⇒



<https://bit.ly/>

2～4 年生用⇒



<https://bit.ly/>

実施期間: 2024 年 9 月 11 日(水)14:00～11 月 6 日(水)14:00



Your Voice Change KUIS

学生アンケート 2024 に寄せられた
貴重なご意見をもとに改善しました！

（アンケートにご協力賜り誠にありが
とうございました。）

神田外語大学

↑ステッカーを貼って回答を促進しました。

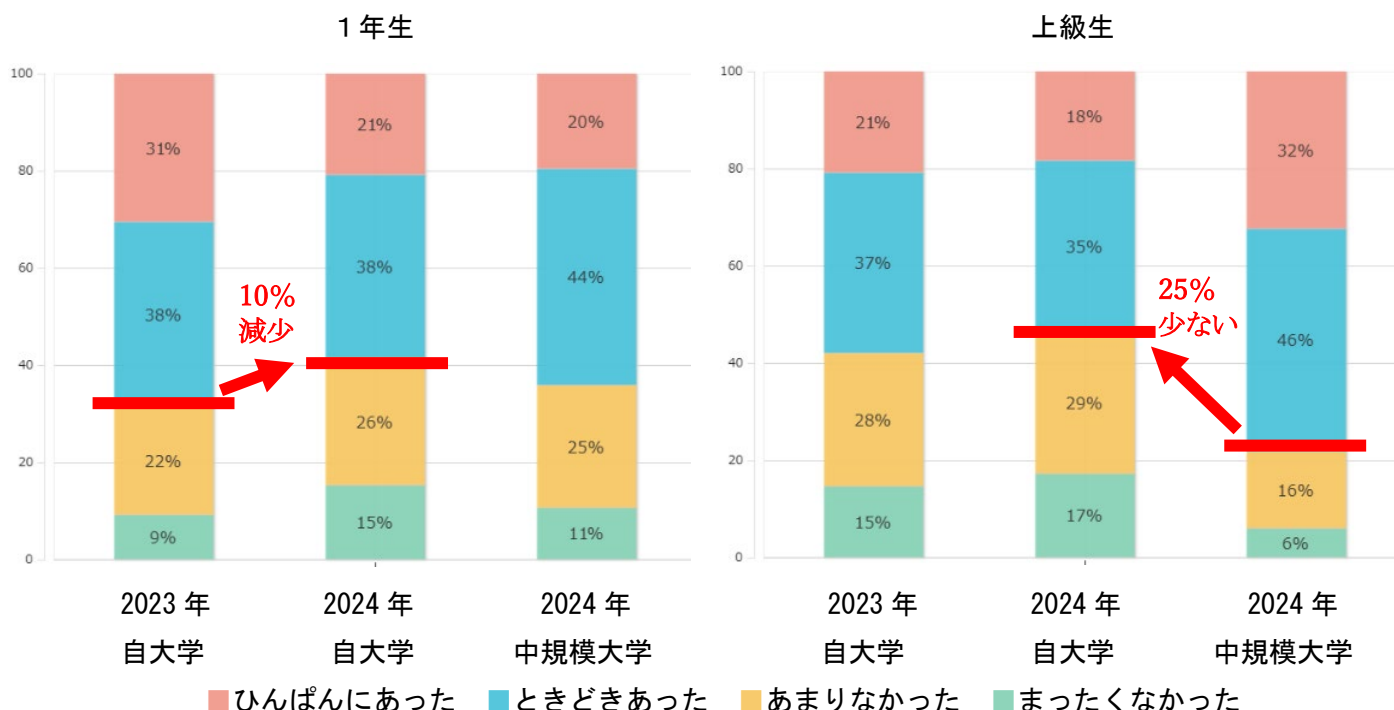
←学内ポータルにポスターを掲出してアンケート実施
を周知しました。

●共通学生アンケートの集計結果 — 2023 年度・2024 年度 — (抜粋)

授業経験：実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ【Q4A】

⇒ 1 年生は 2023 年から 2024 年にかけて 10%減少。

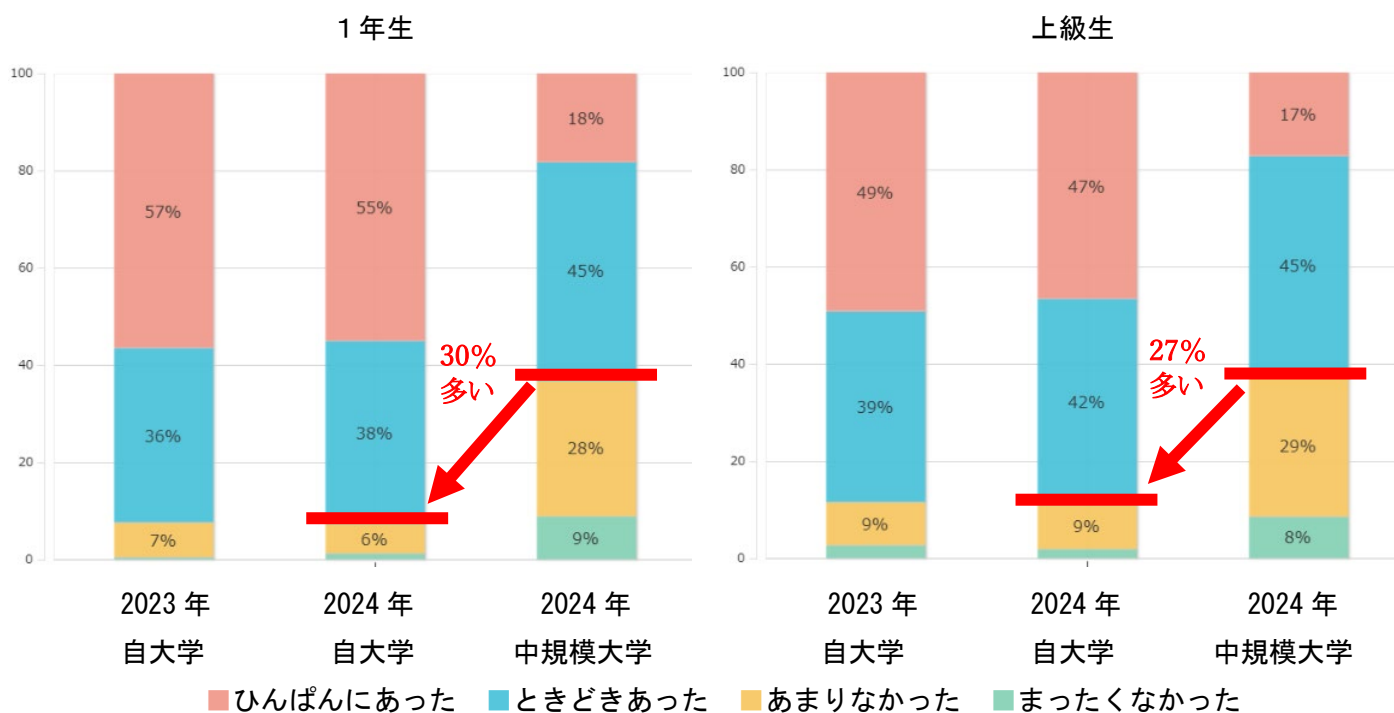
上級生は大学 IR コンソーシアム（以下、IR コンソ）の中規模大学と比べると 25%少ない。



授業経験：教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する【Q4G】

⇒ 1 年生、上級生ともに IR コンソ中規模大学と比べると 30%前後多い。

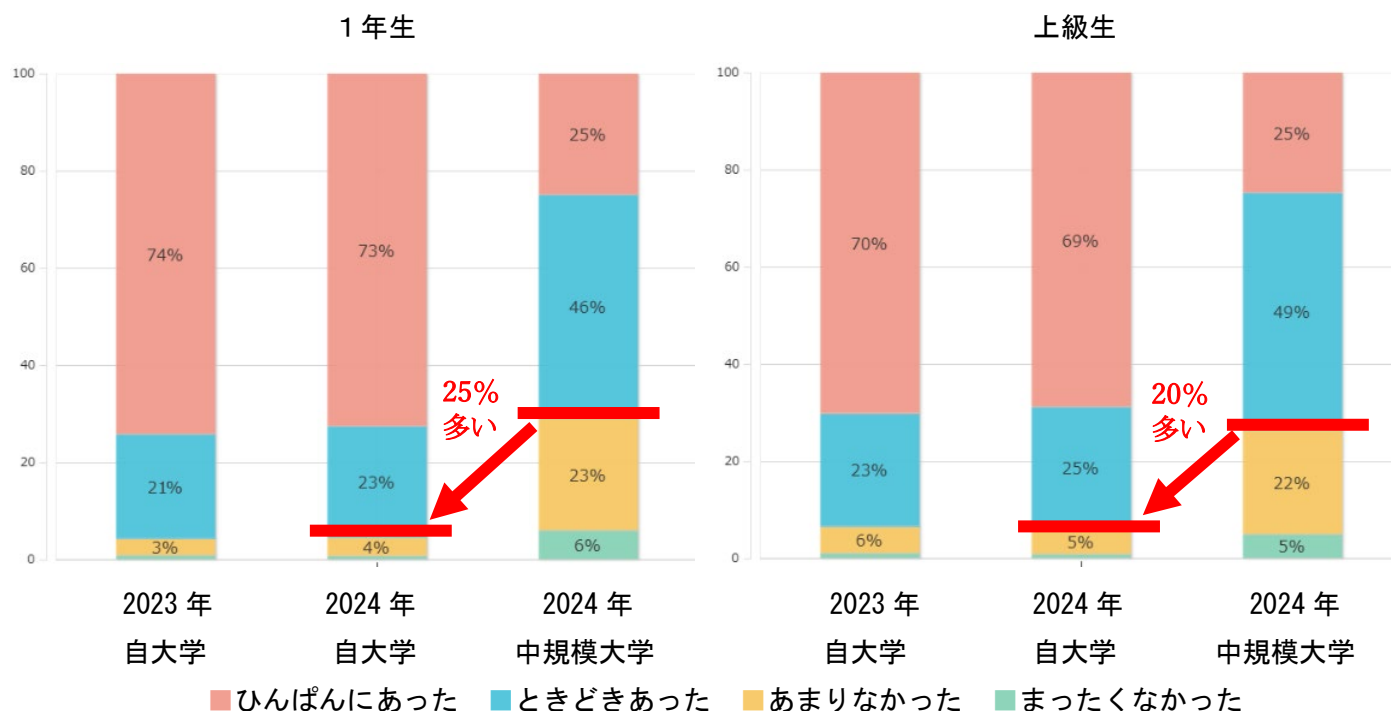
このことから、教員が課題やレポートを確認していることが分かる。



授業経験：授業中に学生同士が議論をする【Q4I】

⇒ 1 年生、上級生ともに IR コンソ中規模大学と比べると 20～25%多い。

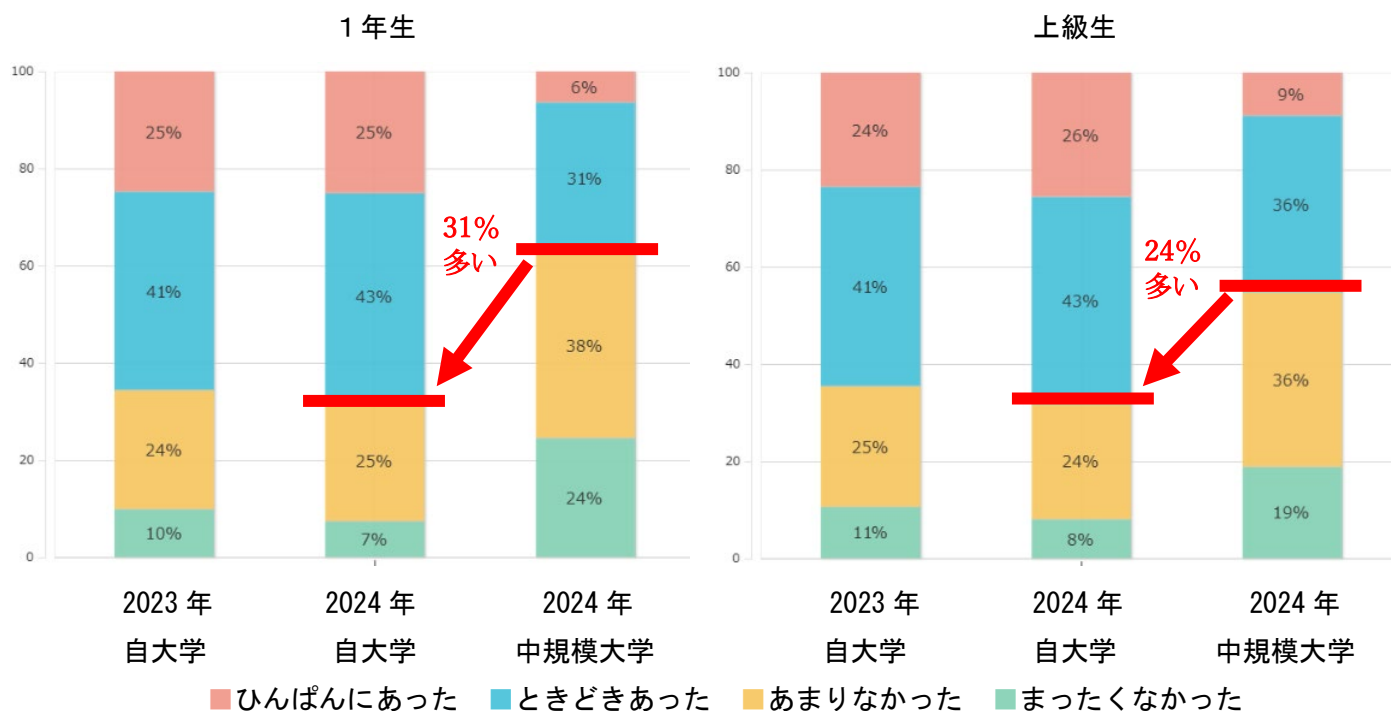
KUIS では、授業中に学生同士がよく議論をしていることが分かる。



学習態度：教員に親近感を感じた【Q5N】

⇒ 1 年生、上級生ともに IR コンソ中規模大学と比べると 24～31%多い。

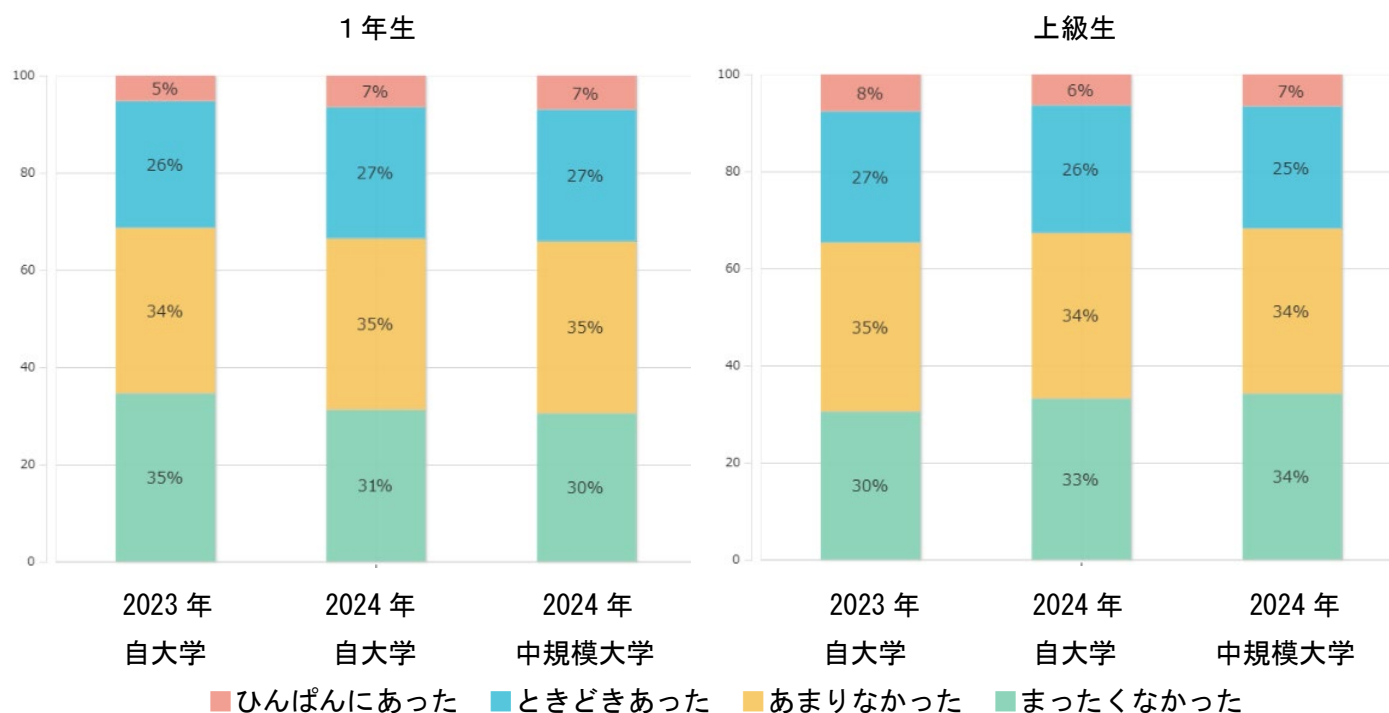
本学では、教員に親近感を感じている学生が多い。



学習態度：提出期限までに授業課題を完成できなかった【Q5D】

⇒ 1 年生、上級生ともに IR コンソ中規模大学と比べても同じ傾向。

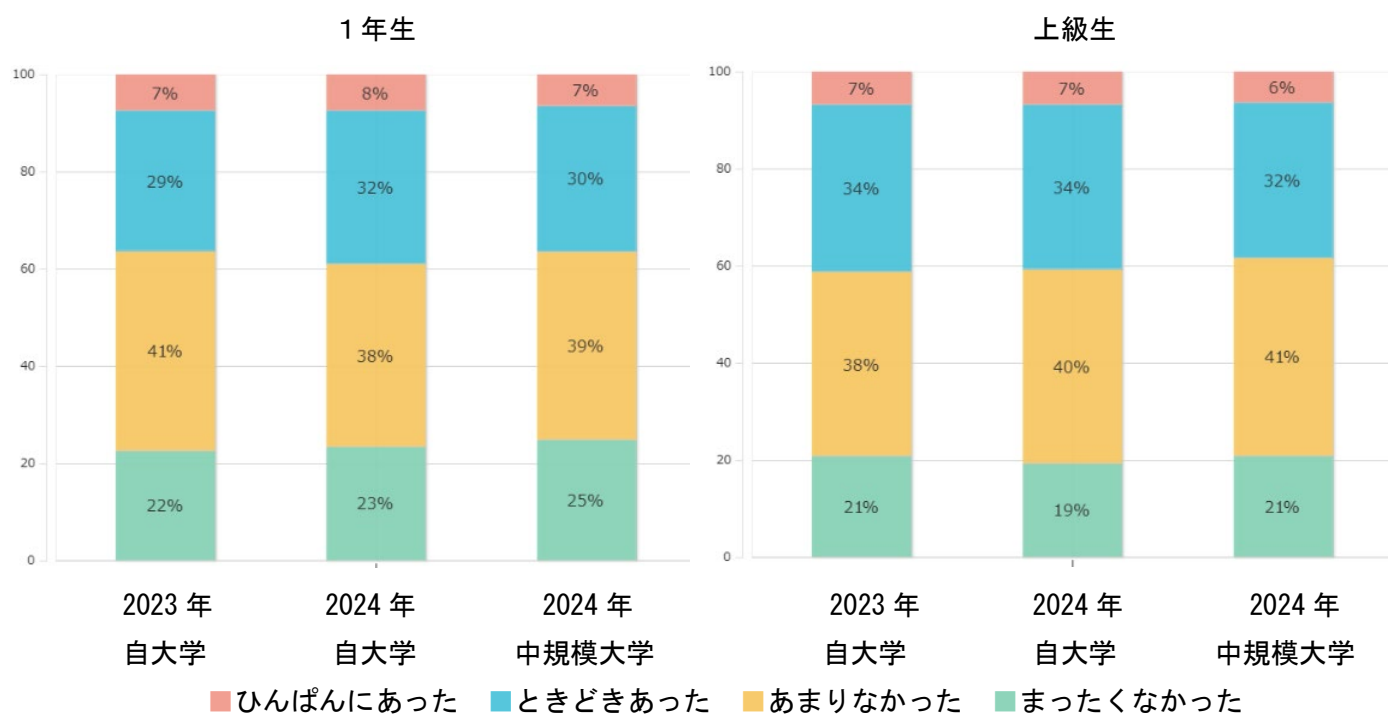
KUIS 学生の授業課題への印象は他大学並み。



学習態度：授業に欠席した【Q5G】

⇒ 1 年生、上級生ともに IR コンソ中規模大学と比べても同じ傾向。

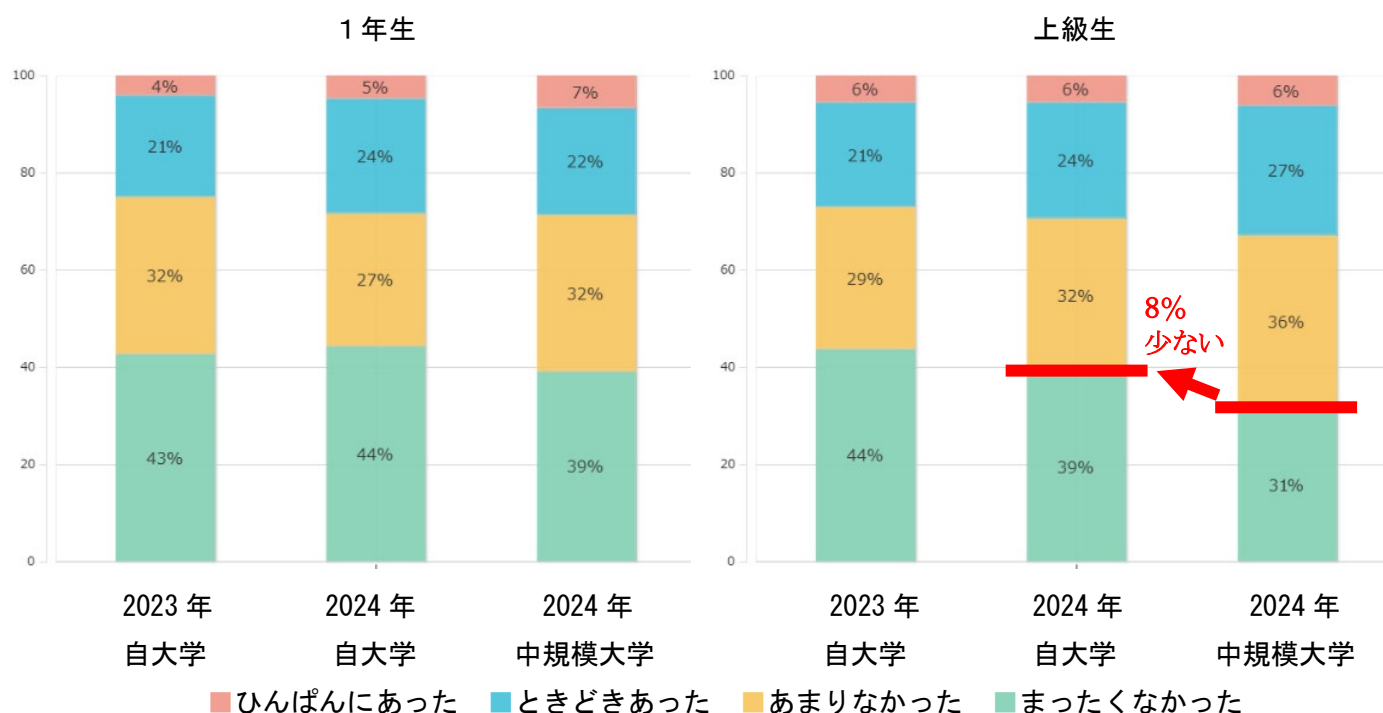
KUIS 学生の授業欠席への印象は他大学並み。



学習態度：授業に遅刻した【Q5H】

⇒ 1 年生は、IR コンソ中規模大学と比べても同じ傾向で授業遅刻への印象は他大学並み。

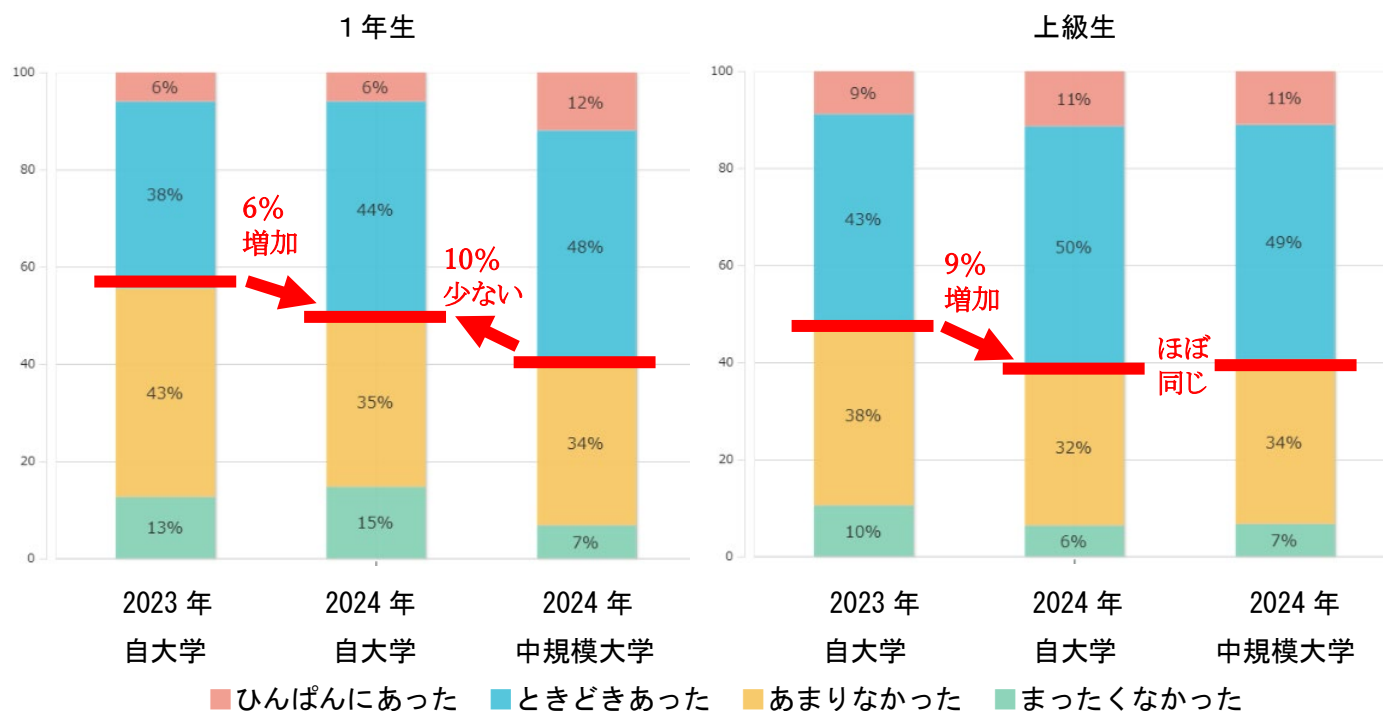
上級生は、IR コンソの中規模大学と比べると 8 % 少ない。



学習態度：授業をつまらなく感じた【Q5I】

⇒ 1 年生、上級生ともに、2023 年から 2024 年にかけて増加傾向。しかし、現状は

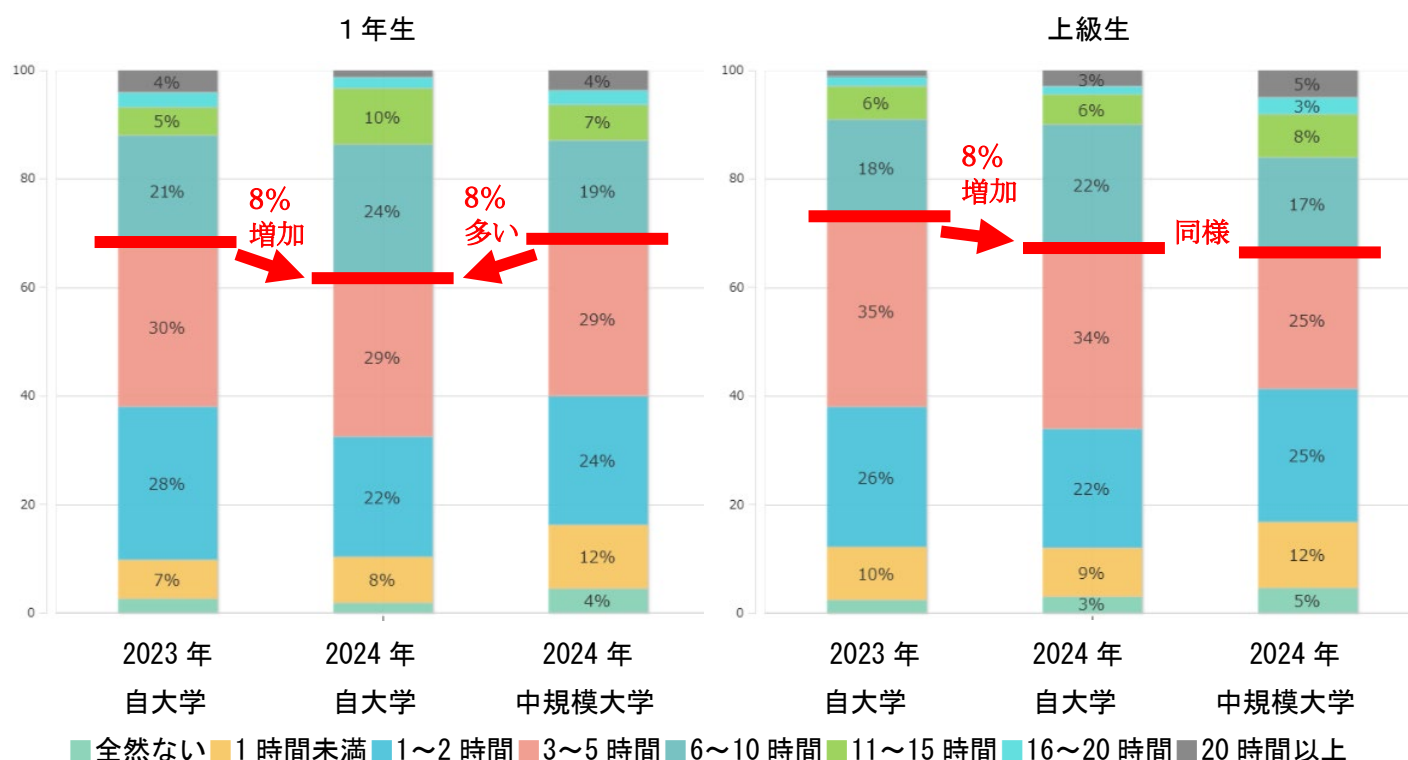
1 年生、上級生ともに授業への退屈感是他大学より低い、または他大学と同様。



週あたりの活動時間：授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする【Q6B】

⇒ 1 年生は、2023 年から 2024 年にかけて 6～15 時間が 8%増加傾向。他の中規模大学より 8%多い。

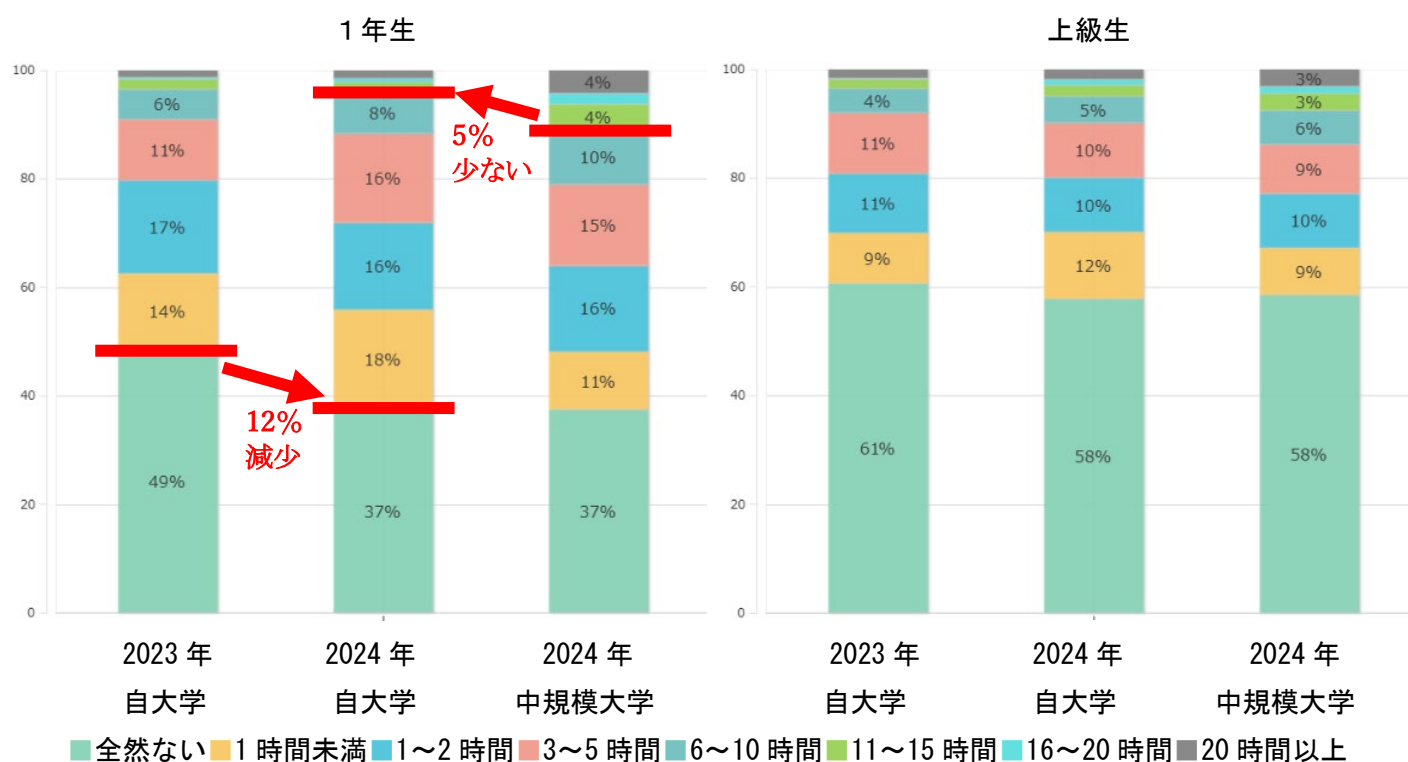
上級生は、2023 年から 2024 年にかけて 6～15 時間が 4%増加傾向。他の中規模大学と同様。



週あたりの活動時間：部活動や同好会に参加する【Q6E】

⇒ 1 年生は、全然ないが 12%減少。他の中規模大学と比べ 11 時間以上が 5%少ない状況。

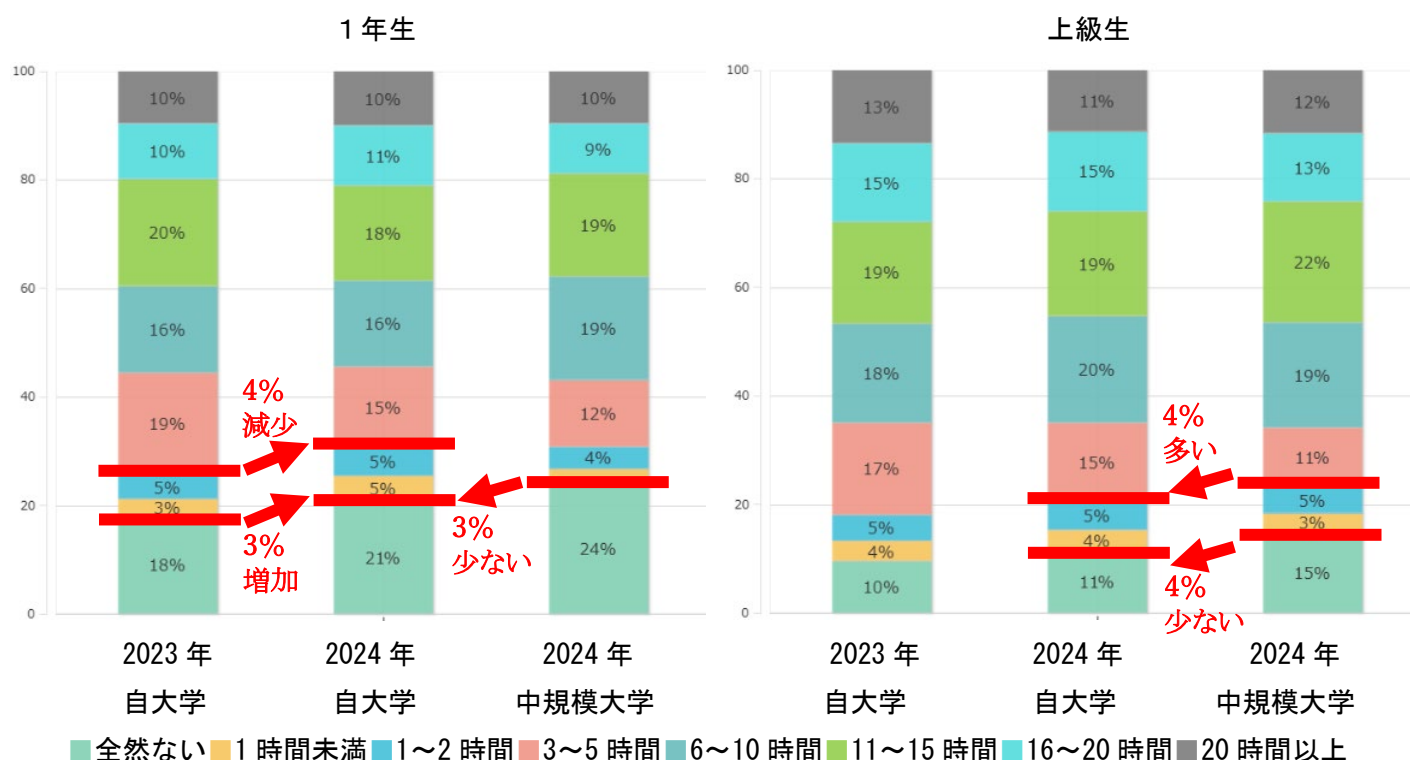
上級生は、経年で見ても例年通り。



週あたりの活動時間：大学外でアルバイトや仕事をする【Q6F】

⇒1年生は、全然ないが3%増加、3～5時間が4%減少。中規模大学より、全然ないが3%少ない。

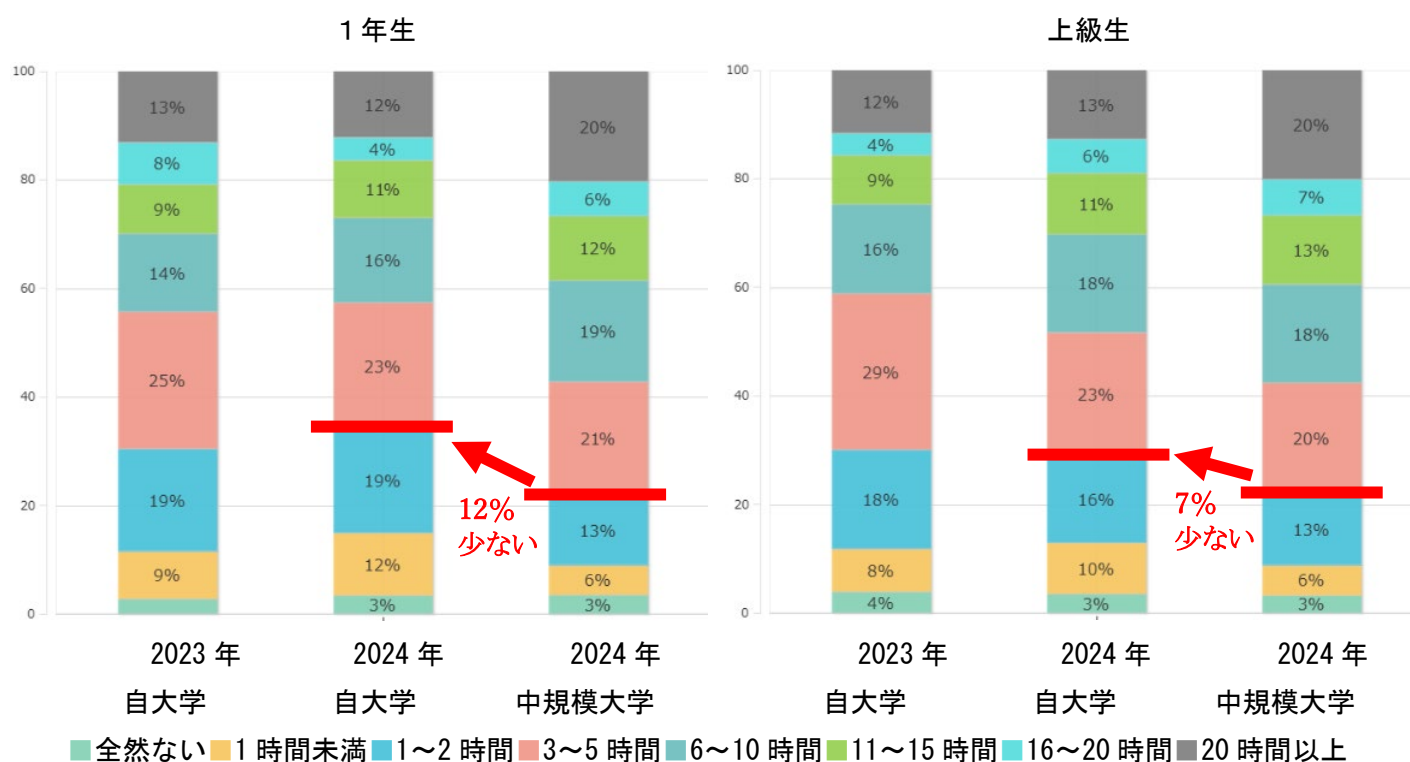
上級生は、中規模大学に比べ、全然ないが4%少ない。3～5時間が4%多い。



週あたりの活動時間：個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）【Q6H】

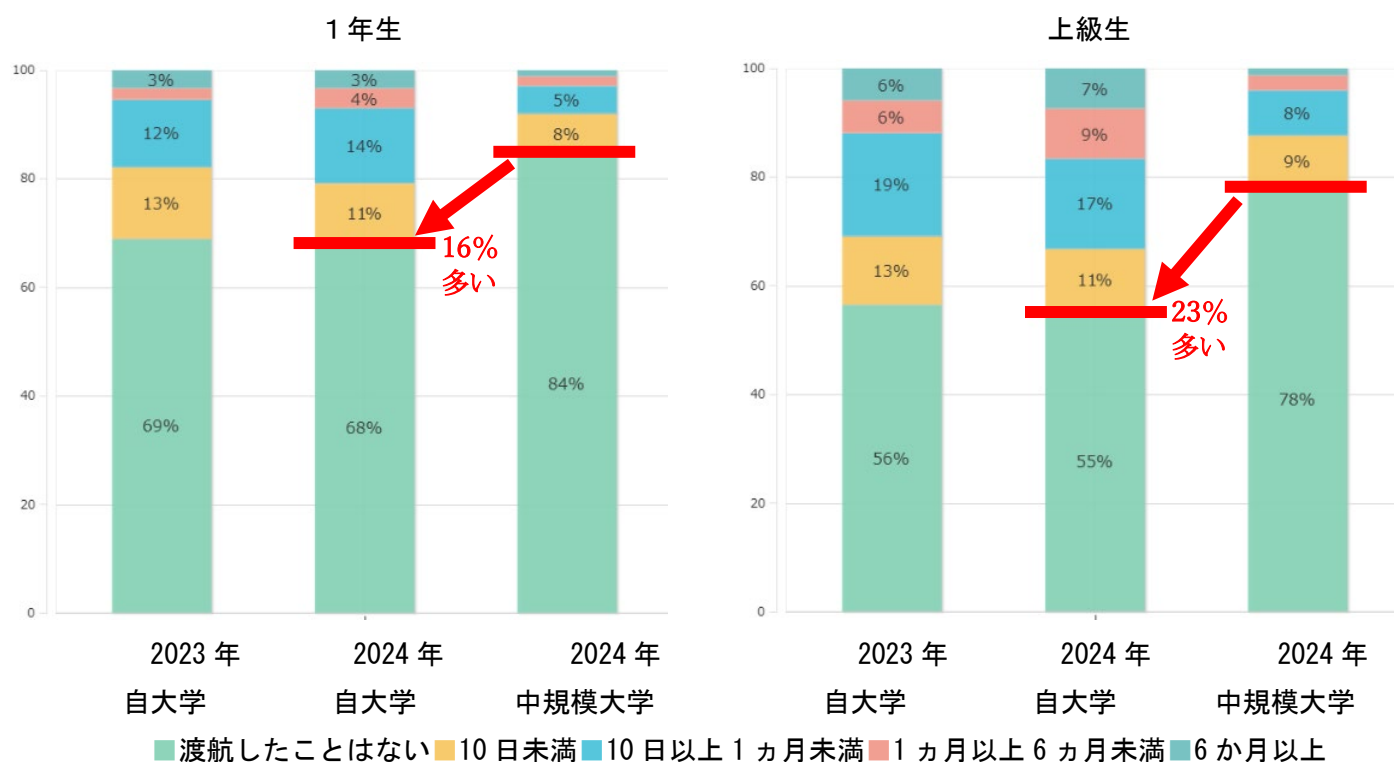
⇒1年生は、中規模大学に比べ、6時間以上かける時間の割合が12%少ない。

上級生は、中規模大学に比べ、6時間以上かける時間の割合が7%少ない。



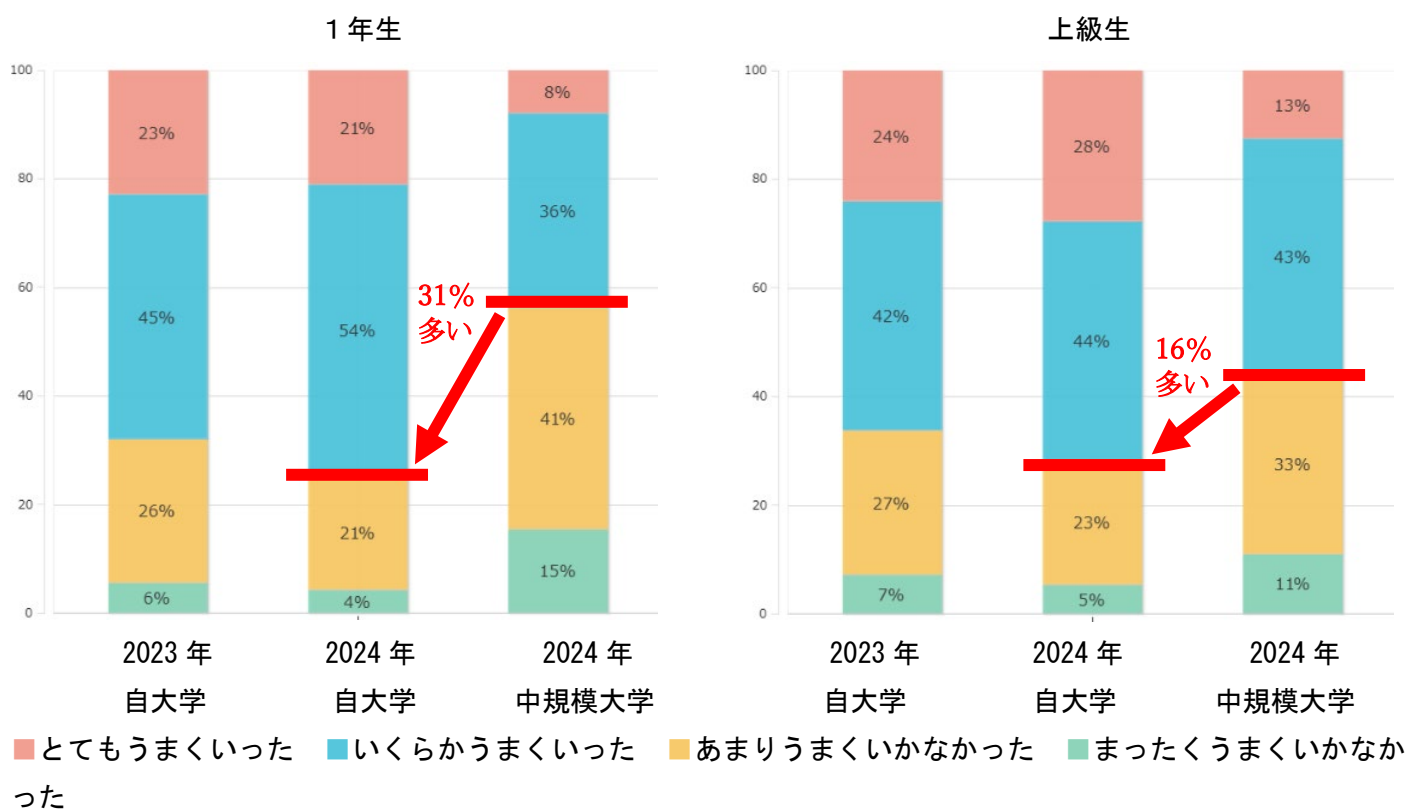
渡航経験【Q9】

⇒ 渡航経験について、他の中規模大学に比べ、1 年生では 16%、上級生では 23%多い。



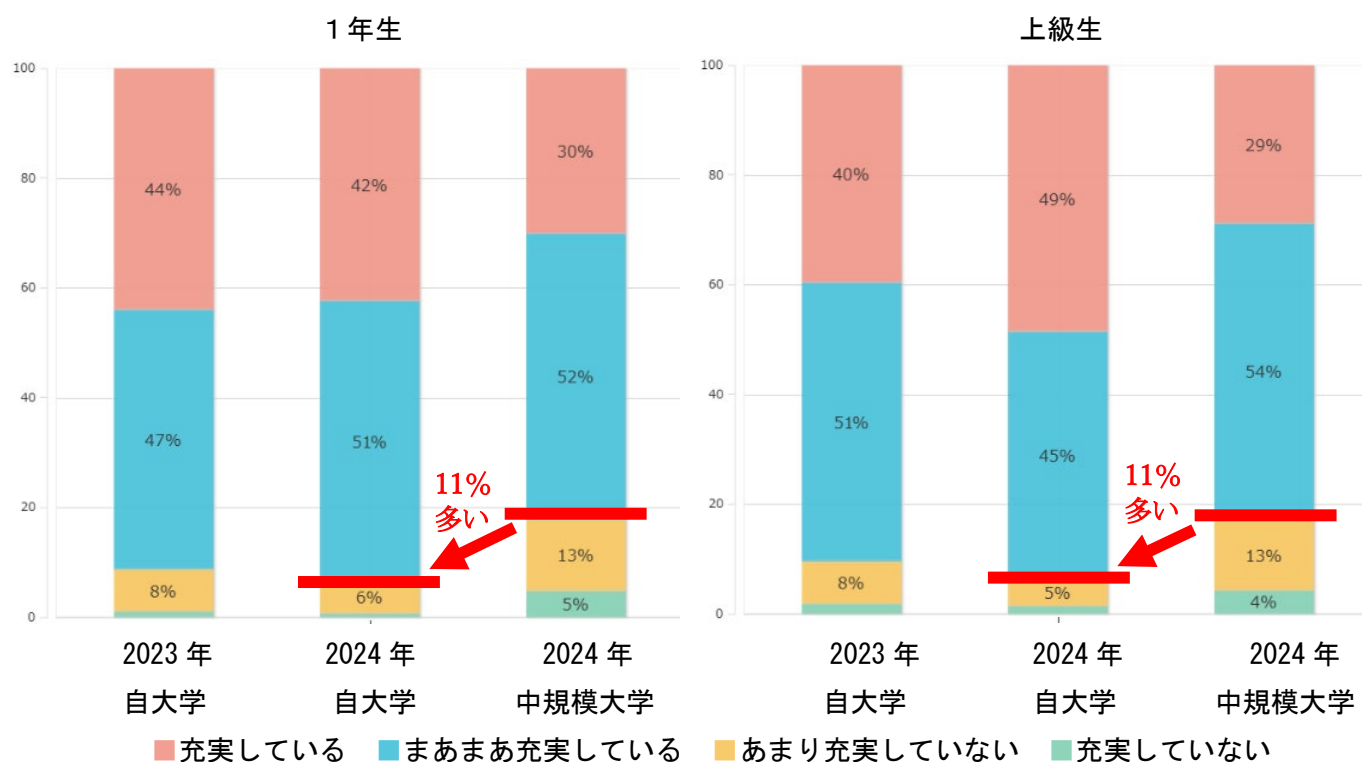
大学生活への適応：大学教員と顔見知りになる【Q10F】

⇒ うまくいった+いくらかうまくいったという割合が、他の中規模大学に比べ、1 年生では 31%、上級生では 16%多い。



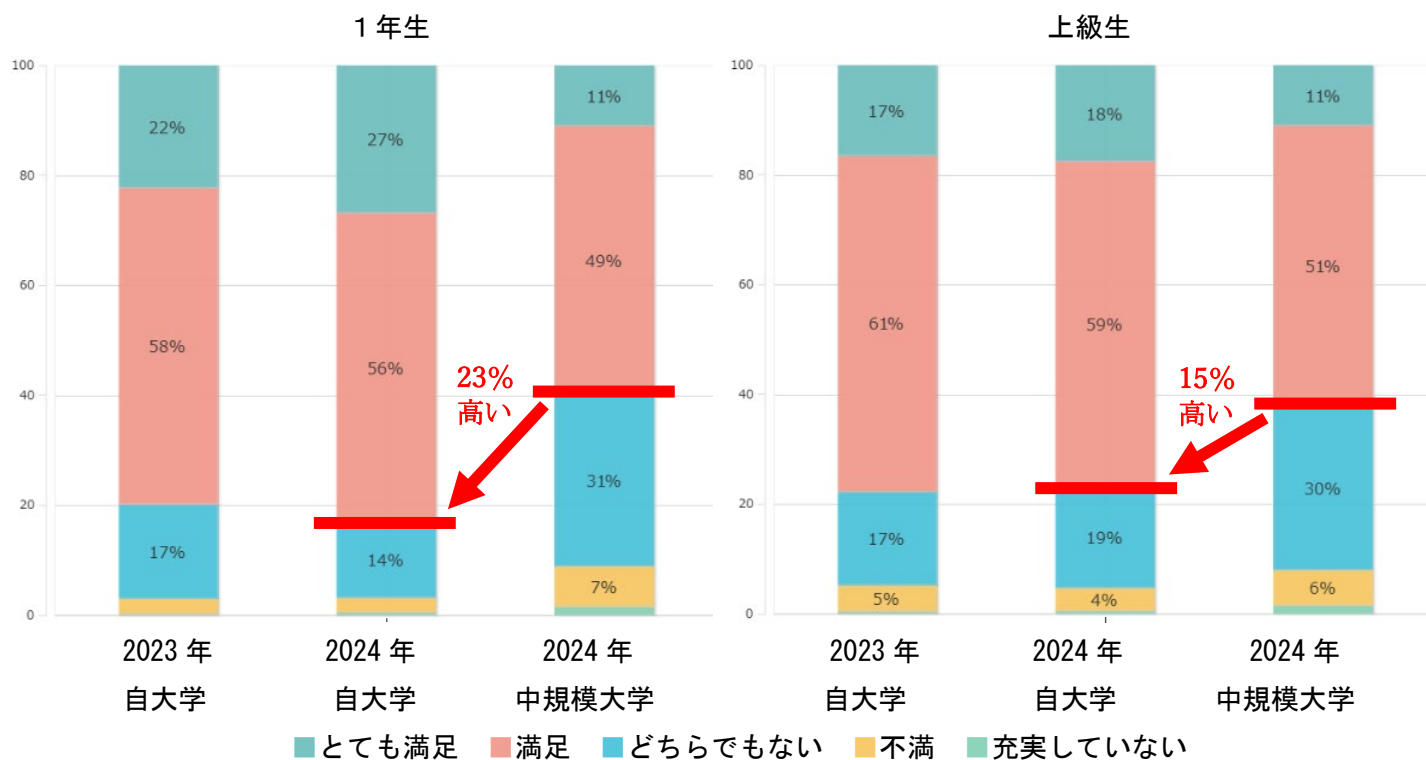
学生生活の充実度【Q11】

⇒1年生、上級生ともに、他の中規模大学に比べて、充実している+まあまあ充実していると回答している割合が11%多い。



大学教育への満足度：授業の全体的な質【Q12C】

⇒中規模大学に比較して、とても満足+満足が1年生は23%、上級生は15%高い。



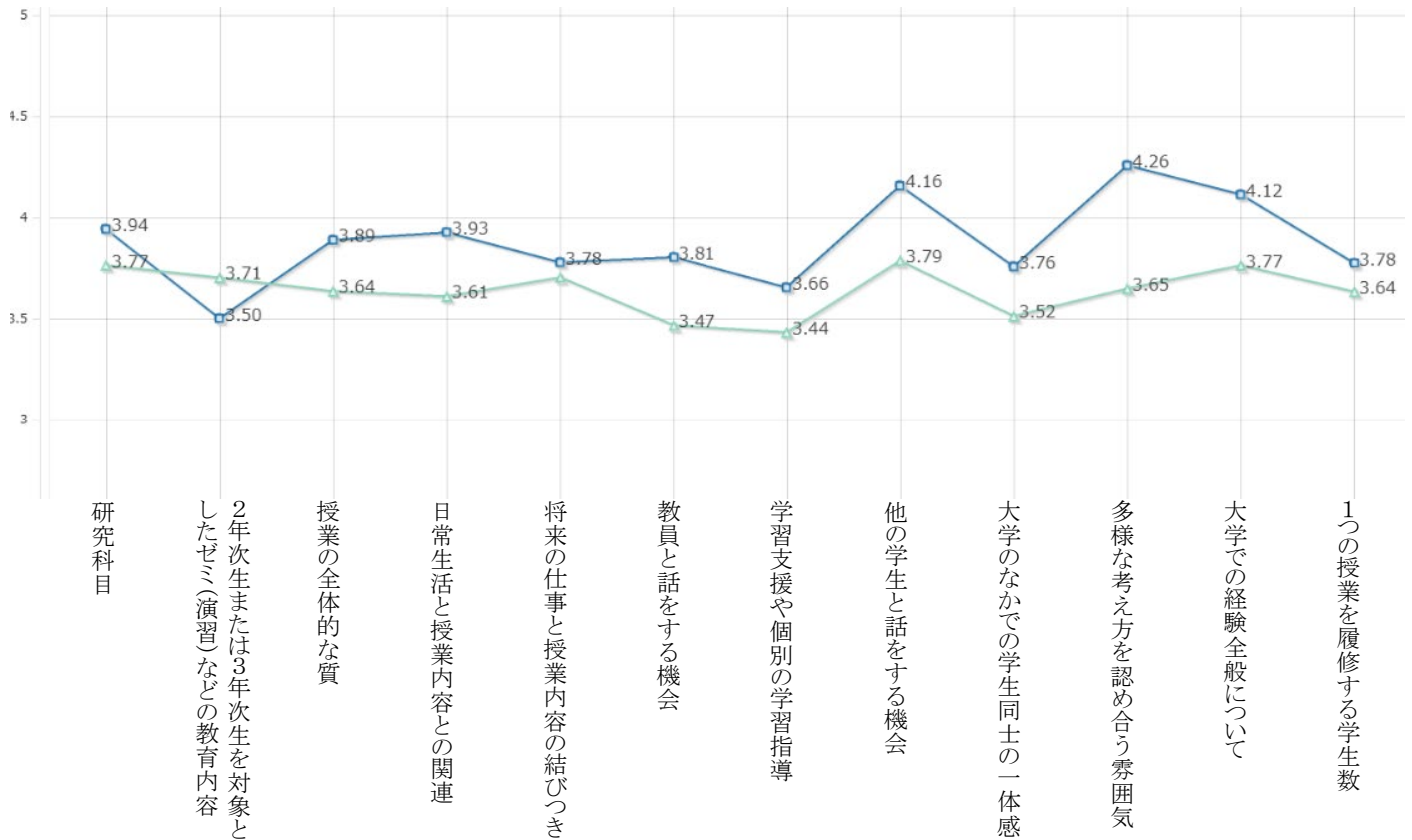
大学教育への満足度：大学 IR コンソーシアム中規模大学平均との比較（上級生：2～4 年生）

Q12. あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

⇒「多様な考え方を認め合う雰囲気」、「他の学生と話をする機会」、「大学での経験全般」など

全般的に、大学 IR コンソーシアム（上級生調査）の中規模大学スコアより、高い値となっている。

「2 年次生または 3 年次生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容」は、他の中規模大学のスコアより、低い値となっている。



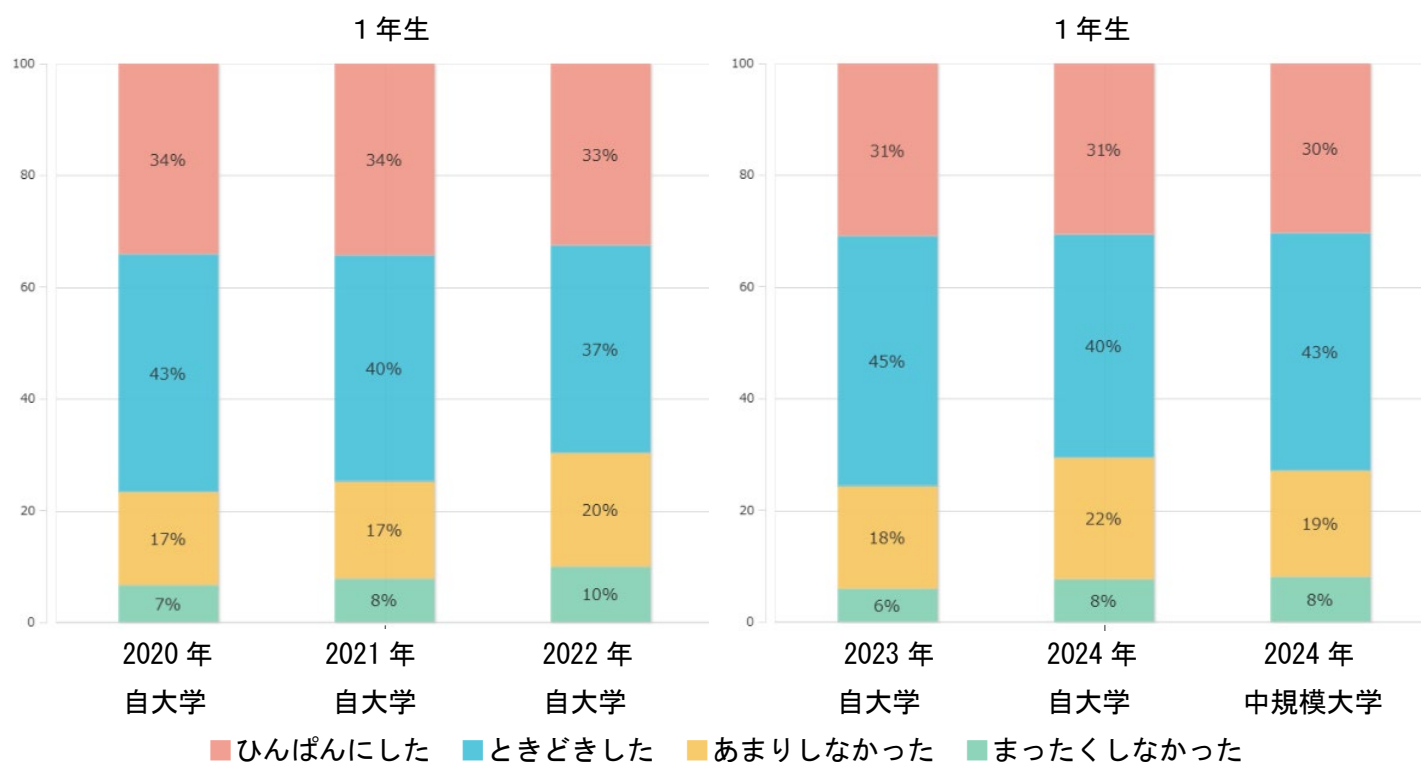
▲ IR コンソーシアム加盟校全体（上級生調査）

■ 本学（上級生調査）

高校3年次の学習経験：授業の予習や復習、宿題をした

⇒2020年から2022年は減少傾向、2022年から2023年は一転して増加。

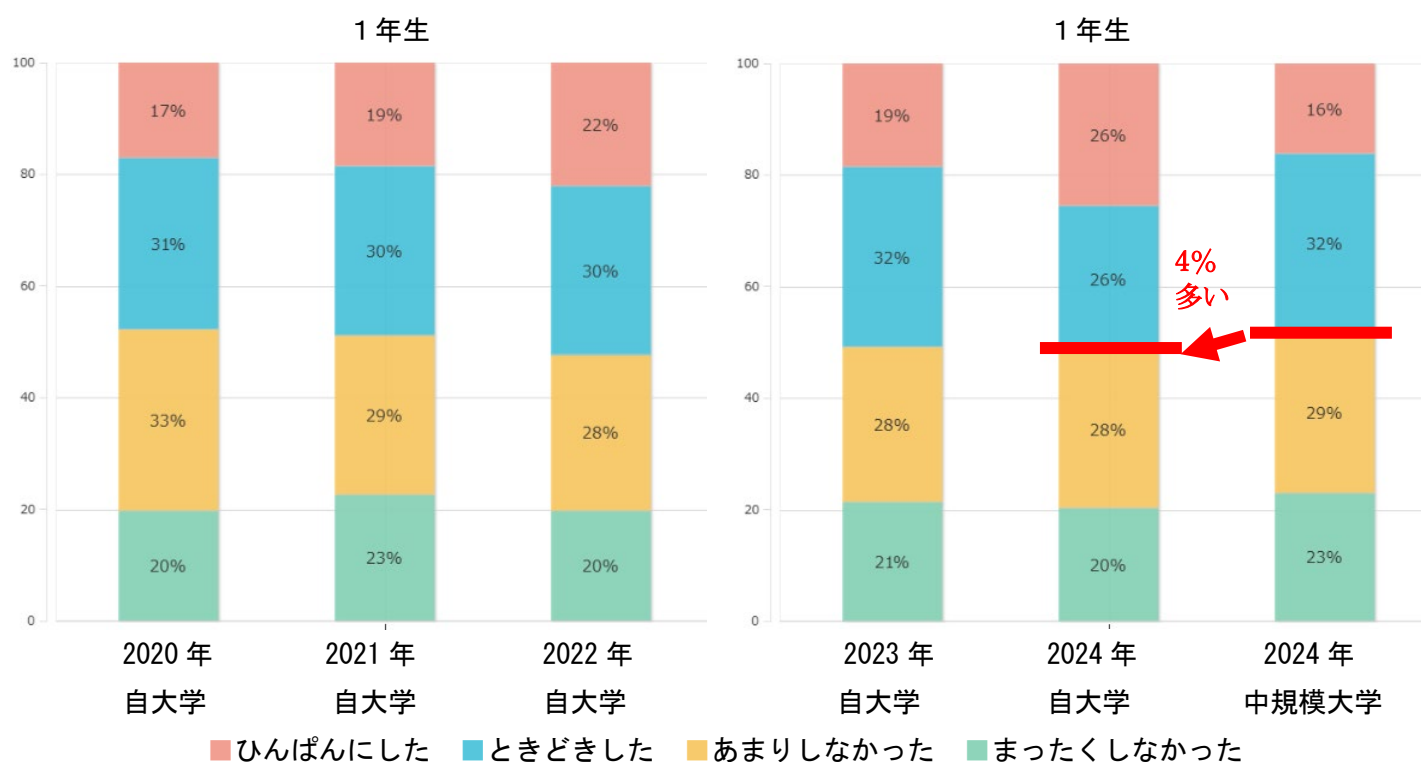
2023年から2024年は減少。中規模大学と同じ傾向。



高校3年時の学習経験：読書をした（マンガ・雑誌を除く）

⇒2020年から2024年かけて、ひんぱんにした＋ときどきしたが増加傾向。年々増えている。

他の中規模大学と比べて、4%多い。



卒業生アンケート集計結果 —2024 年度—（抜粋）

●本学における卒業生アンケート実施状況

期 間 : 2024 年 12 月 4 日（水）～2025 年 2 月 19 日（水）

対 象 : 卒業生

有効回答数 : 310 件（2023 年度 235 件、2022 度 94 件）

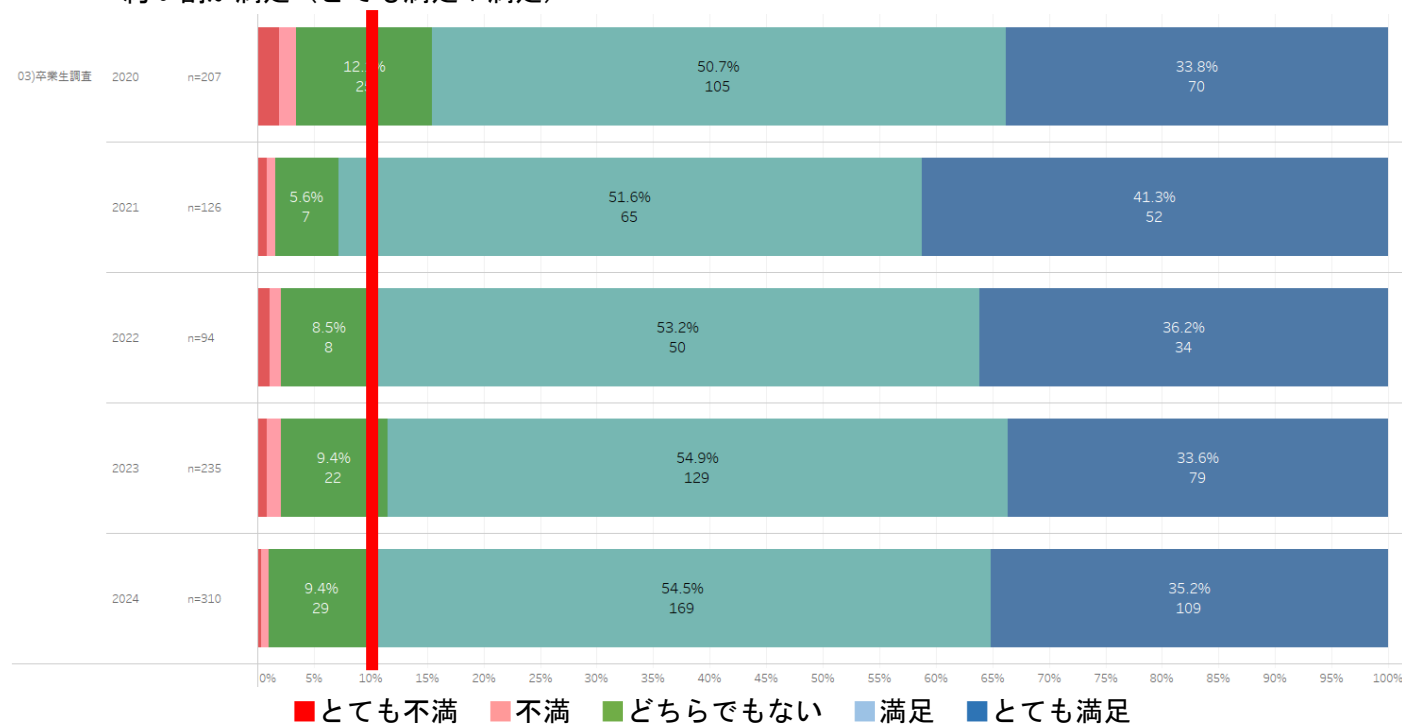
調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間 : 約 8 分

内 容 : IR コンソーシアム共通、満足度（教育・研究／学生生活）、大学卒業後の仕事について、社会で求められる能力など。

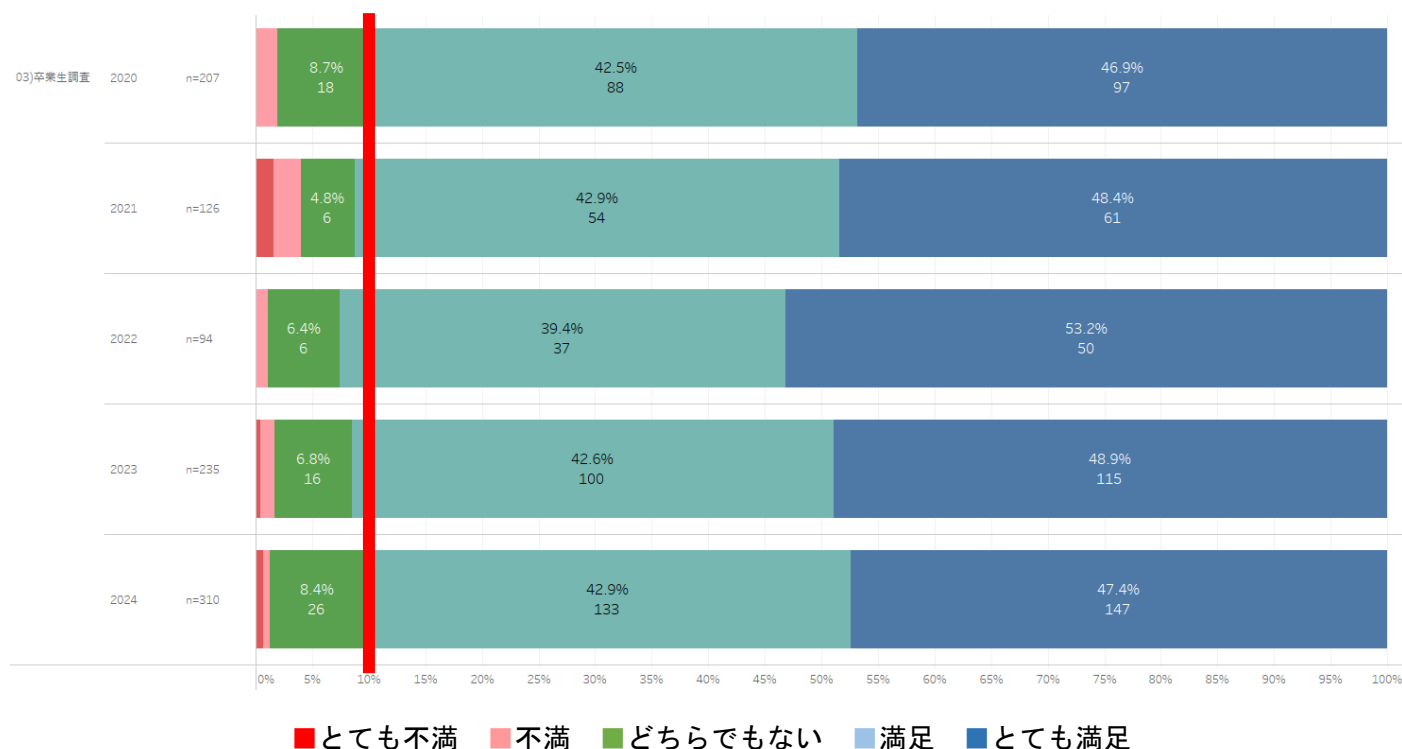
教育・研究の満足度【Q6】

⇒約 9 割が満足（とても満足＋満足）



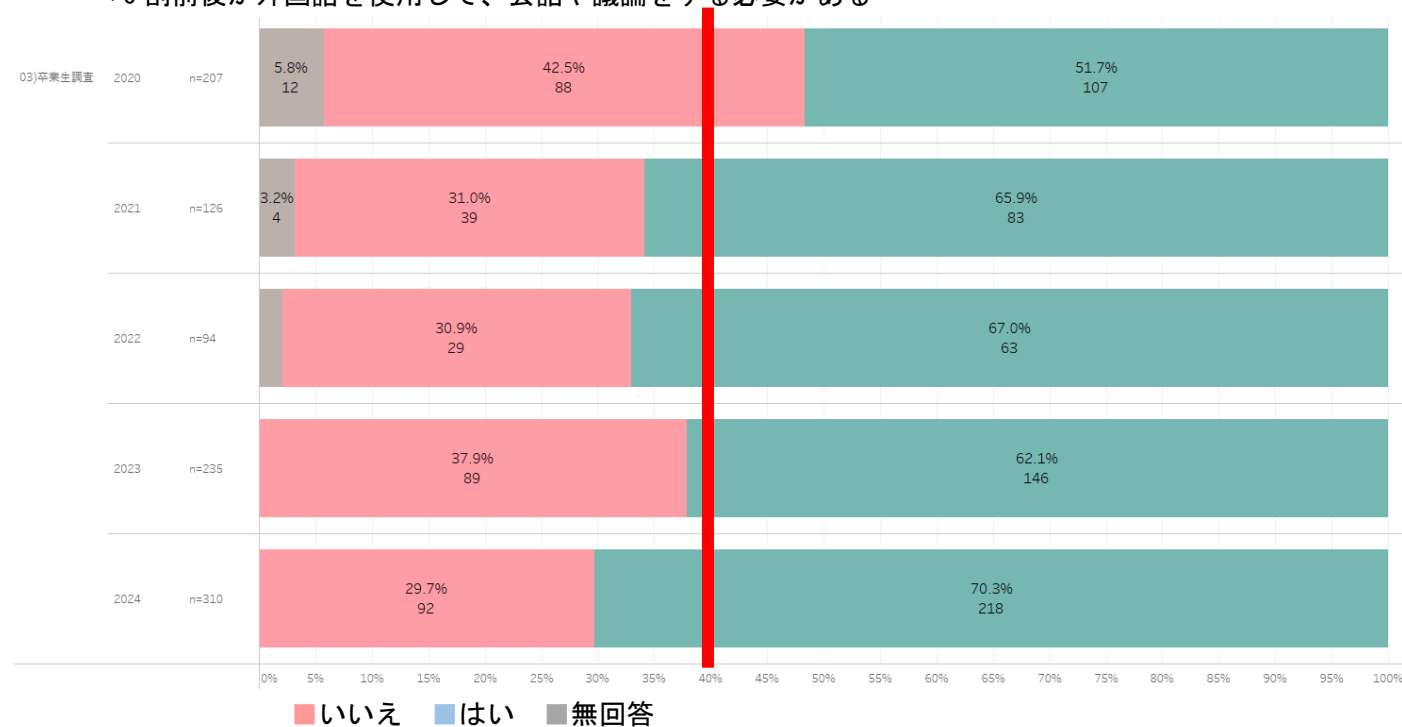
生活全般の満足度【Q7】

⇒約 9 割が満足（とても満足＋満足）



外国語を使用して、会話や議論をする必要がある【Q13-3】

⇒6 割前後が外国語を使用して、会話や議論をする必要がある



企業アンケート集計結果 —2025 年 1～2 月—（抜粋）

●企業アンケートの実施状況

期 間 : 2025 年 1 月 15 日（水）～2025 年 2 月 12 日（水）

対 象 : 本学の会社説明会などに参加する企業・官公庁及びキャリア스에登録の企業約 700 社。

有効回答数 : 172 件（2023 年度 203 件、2022 度 118 件）

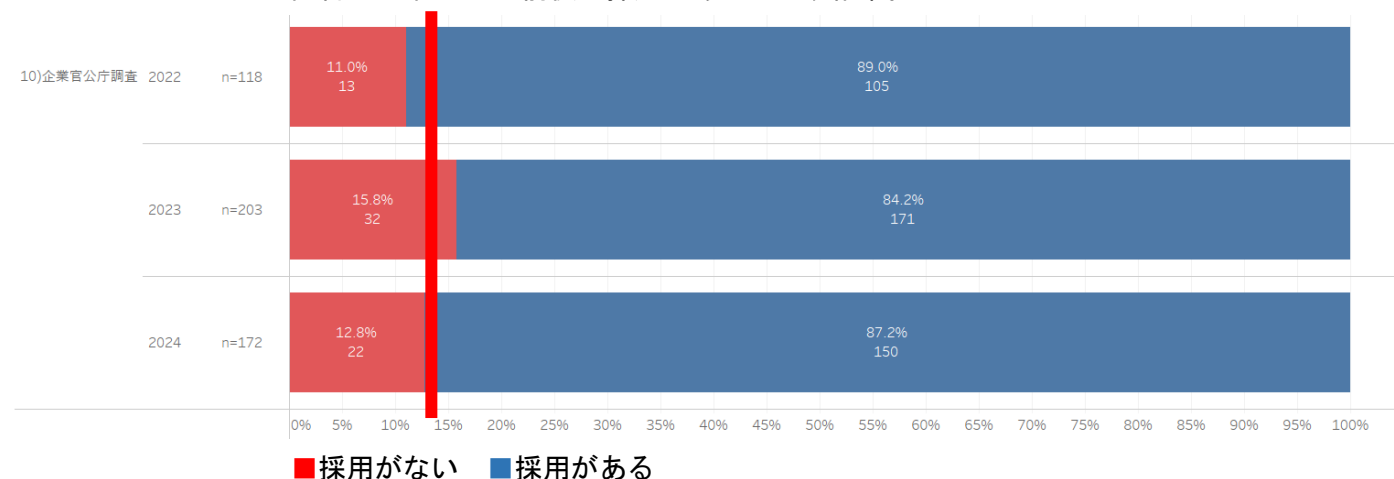
調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間 : 約 8 分

内 容 : 入社時に必要とされる英語力や本学卒業生に対する企業の評価をアンケート調査した。

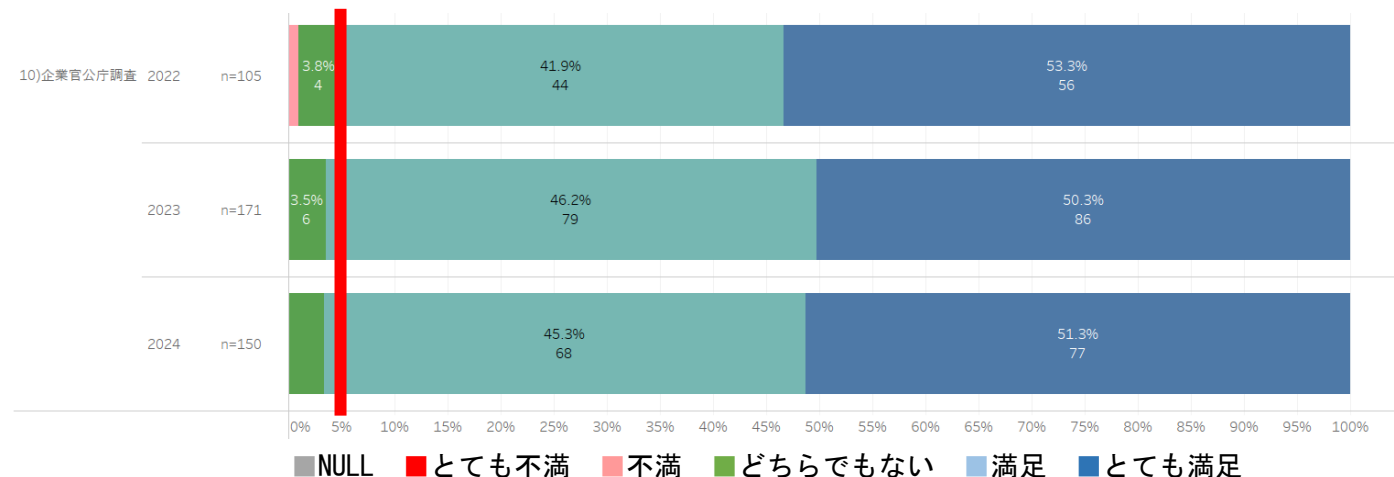
過去に神田外語大学の学生を採用したことはありますか【Q17】

⇒アンケートに回答の企業で 86%前後が採用があるという結果。



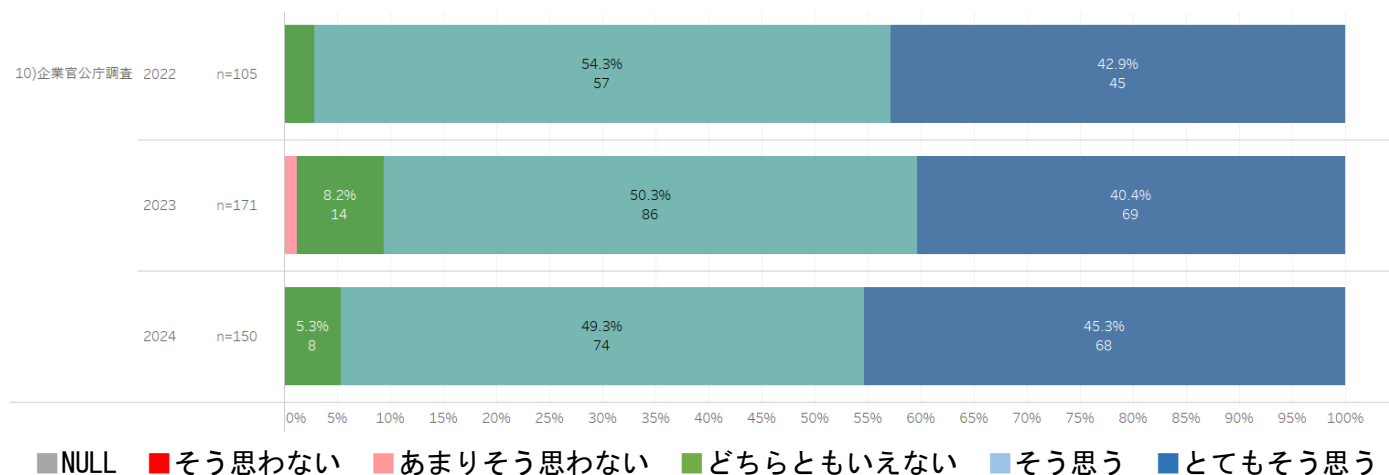
過去に採用した神田外語大学の学生にどのくらい満足していますか【Q19】

⇒95%前後がとても満足、満足と回答。



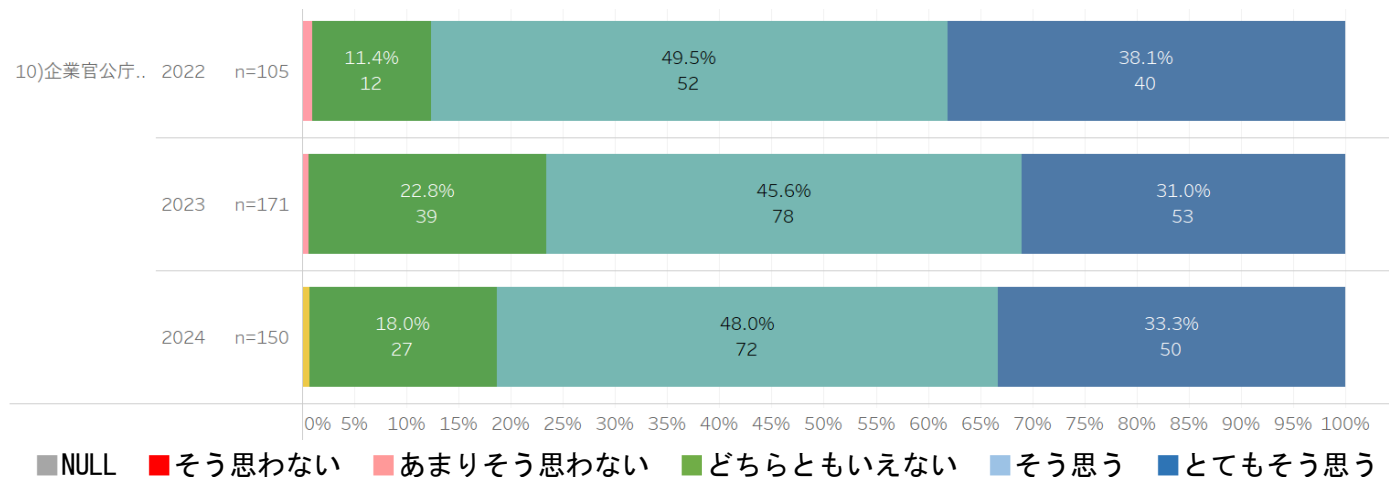
身についていると思う能力：コミュニケーションの能力【Q18N】

⇒とてもそう思う、そう思うが 90%前後（昨年に比べ 3.9%増加）。



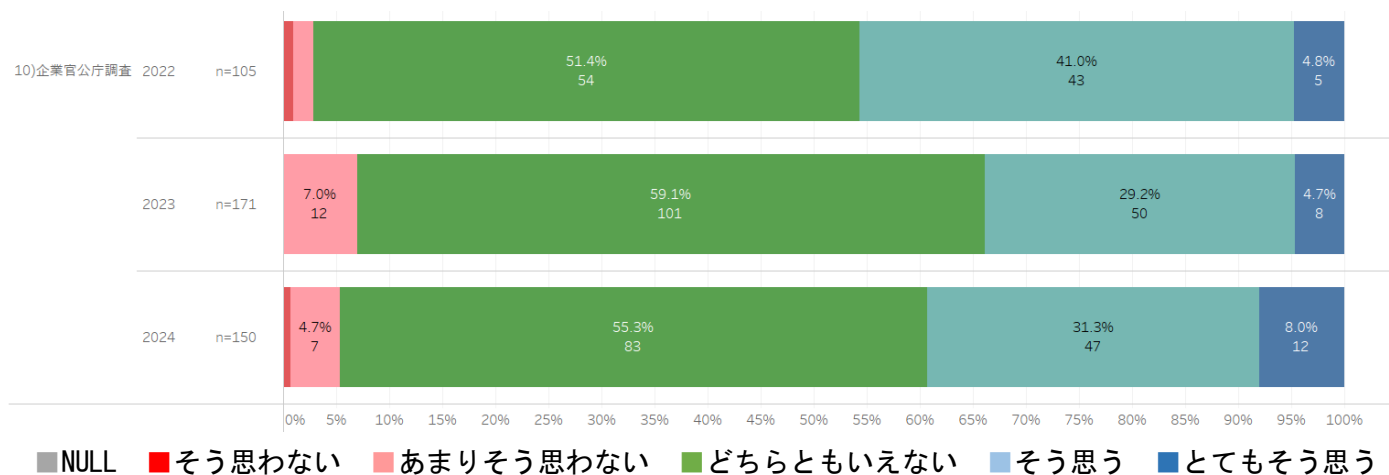
身についていると思う能力：外国語の運用能力（英語）【Q18M】

⇒とてもそう思う、そう思うが 80%前後（昨年に比べ 4.7%増加）。



身についていると思う能力：データを使って分析する能力【Q18U】

⇒とてもそう思う、そう思うが約 30%（昨年に比べ約 5.4%増加）。



過去に採用した神田外語大学の学生の印象（自由記述の回答に書かれたコメントから抽出）

※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

ワードクラウド

⇒名詞は、B to B、採用活動、人材開発などが見られる、

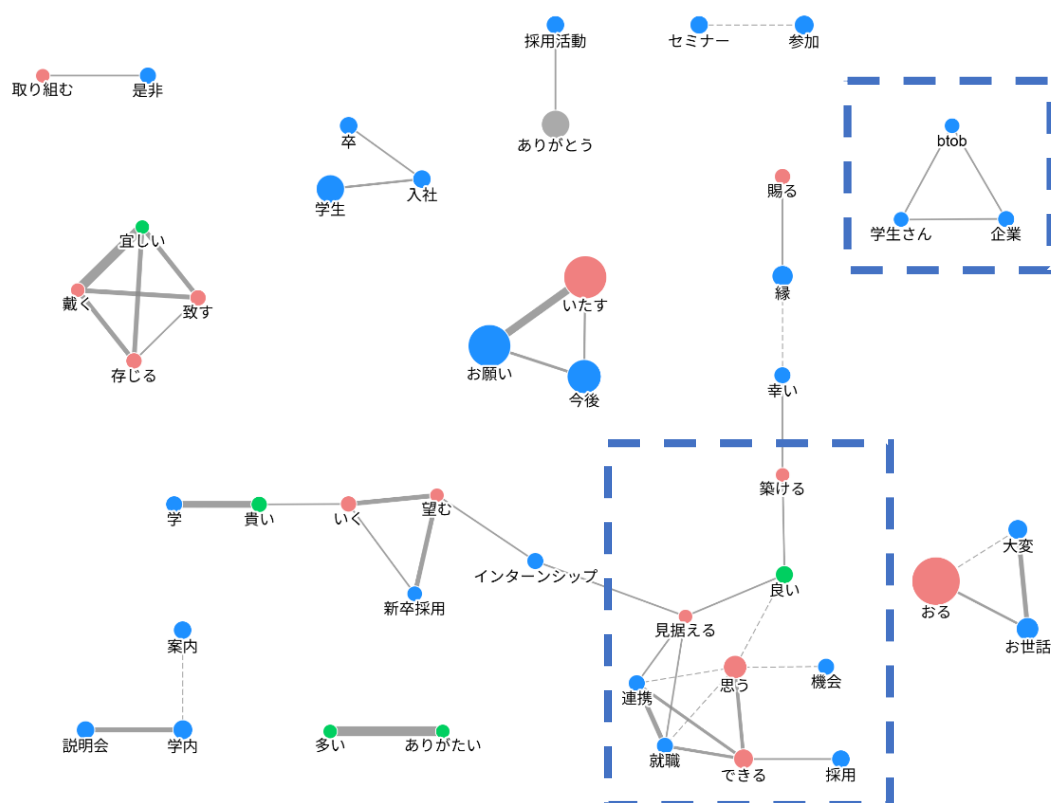
動詞は、築ける、賜るなどの順であった。



共起ワード

⇒就職・採用・機会・連携などとの関連、

B to B・企業・学生さんとの関連が見られた。



AI 要約（ChatGPT 機能より引用）、文章要約

企業が大学との関係を重視し、採用活動への協力を求める内容で構成されています。

- ・採用活動について、毎年を選考や夏季インターンシップなどいつもありがとうございます。
- ・新入社員の期待について、御校の学生様にご入社頂けることをとても楽しみにしています。
- ・今後の連携強化の意向、今後とも、語学力を強みに海外への製品販売に関わる業務にて活躍いただける学生を採用できればと考えています。

卒業時アンケート集計結果 —2025 年 3 月—（抜粋）

●本学における卒業時アンケート実施状況

期 間 : 2025 年 3 月 19 日（水）～2025 年 3 月 26 日（水）

対 象 : 学部の卒業時学生

有効回答数 : 526 件、回答率 58.9%、3 月卒業者数 893 名。

（2023 年度 : 339 件、回答率 36.2%、3 月卒業者数 936 名）

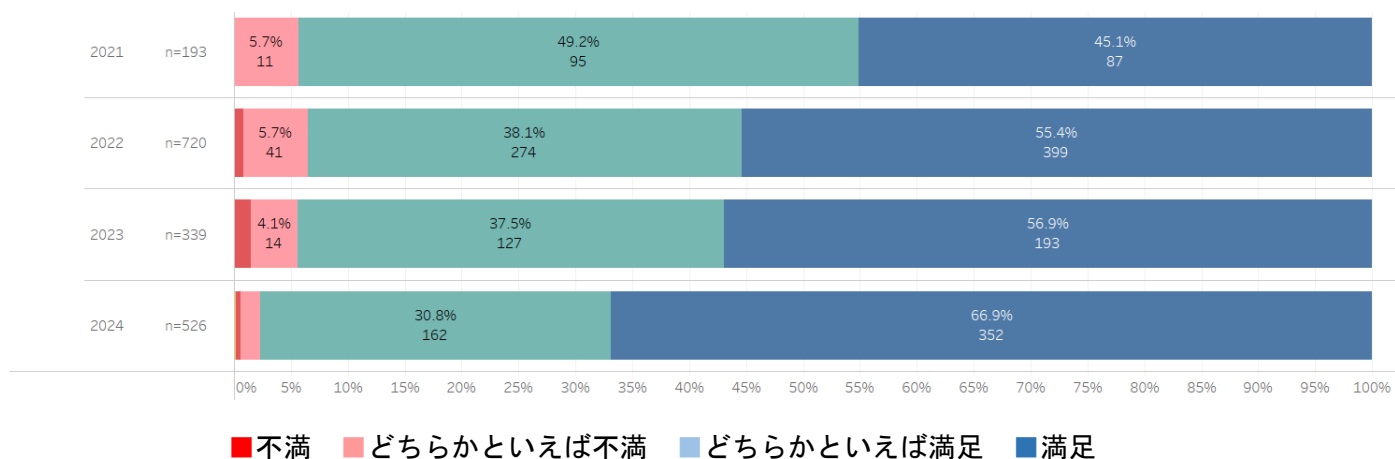
調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間 : 約 8 分

内 容 : ちば産学官連携プラットフォーム共通の項目に、卒業時の満足度等の本学独自項目を追加。

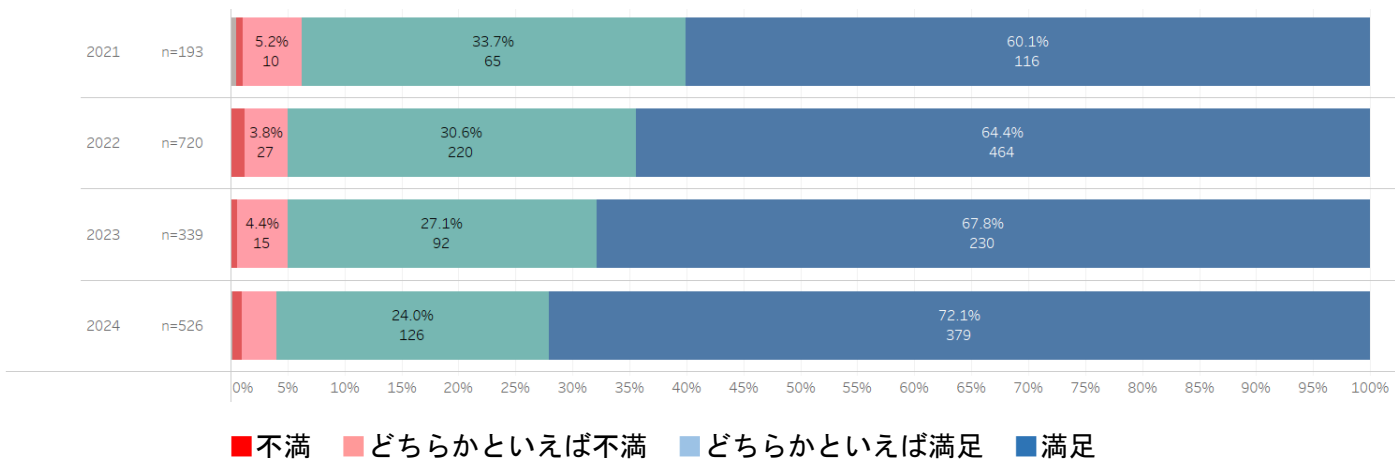
授業に関する満足度【Q4A】

⇒とても満足＋満足は98%前後。とても満足は増加傾向。



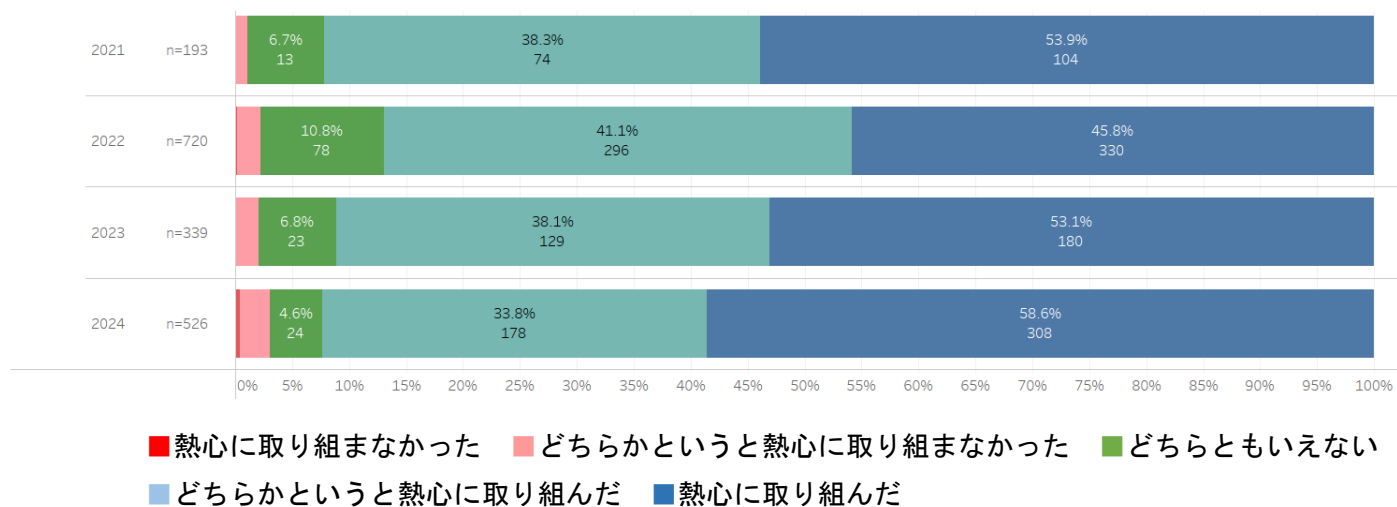
学内施設の満足度【Q4C】

⇒とても満足＋満足は 90%前後。とても満足は増加傾向。



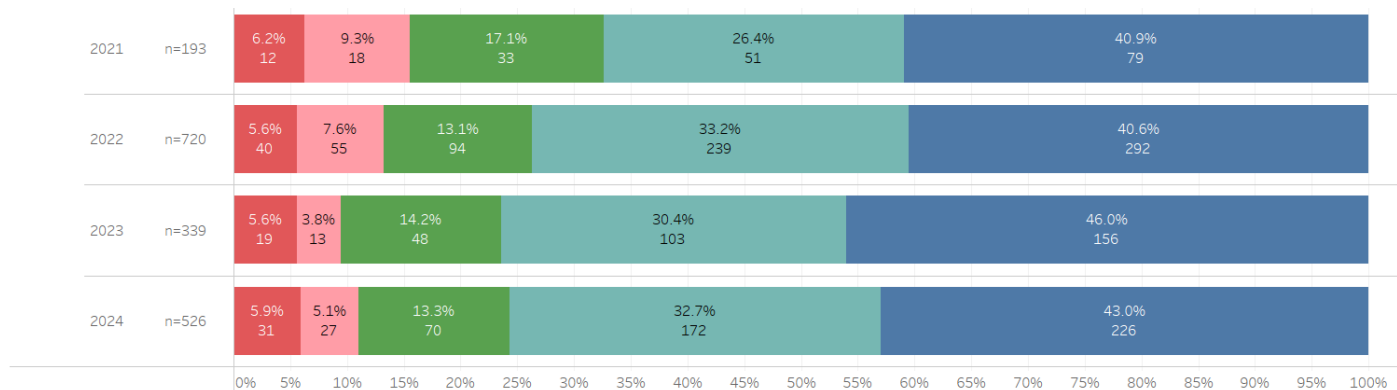
大学で力を入れたこと：大学の勉強（授業とその予習・復習・課題を含む）【Q7A】

⇒毎年 90%前後が熱心に取り組んでいる（熱心に取り組んだ＋どちらかという熱心に取り組んだ）



大学で力を入れたこと：就職活動【Q7I】

⇒75%前後が熱心に取り組んだ＋どちらかという熱心に取り組んだ、増加傾向。



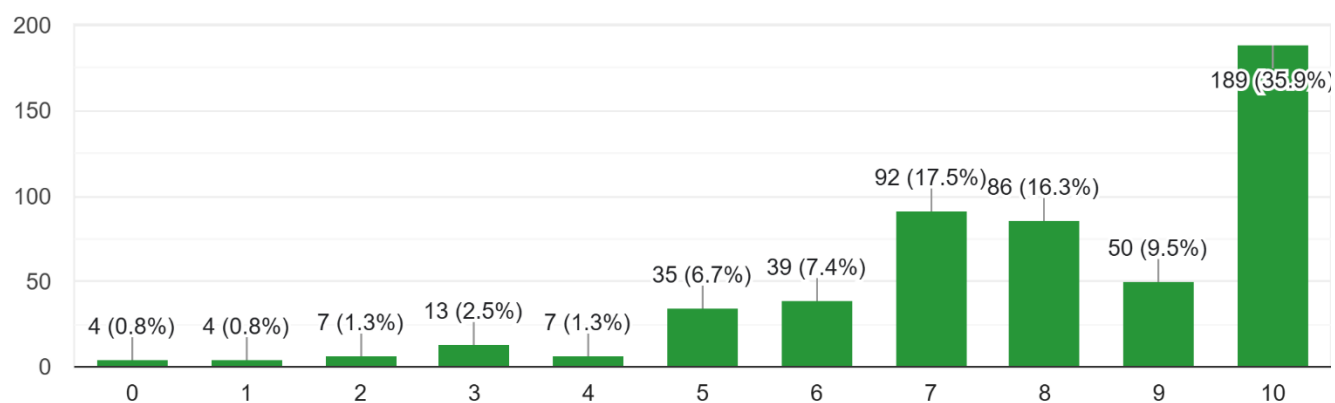
知り合いへの推奨度

⇒NPSは24.6（9点または10点をつけた推奨者の合計45.4%から、0～6点の批判者の合計20.8%を減算）

参考：「NPS とは」 <https://www.nttcoms.com/service/nps/summary/>

Q38..知り合いに神田外語大学をお勧めしますか。

526 件の回答



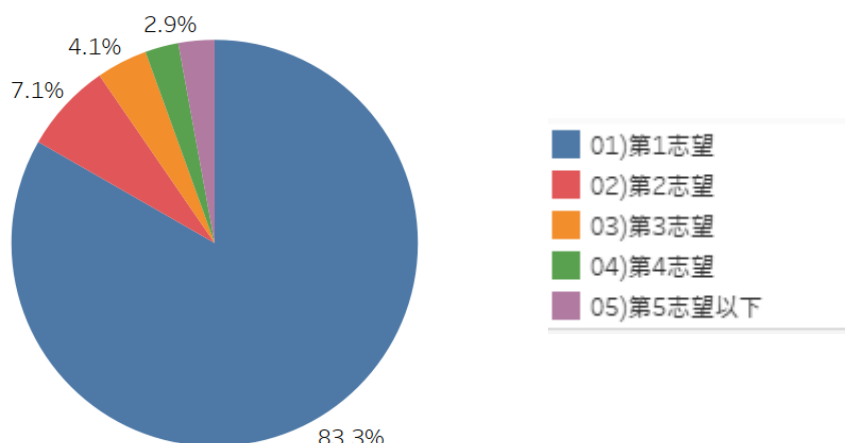
新入生アンケート集計結果 —2025 年度—（抜粋）

●本学における新入生アンケート実施状況

期 間：2025 年 3 月 26 日（水）～2025 年 4 月 16 日（水）
 対 象：学部の新 1 年生
 回 答 数：981 件、回答率 91.6%、4 月新 1 年生 1,071 名
 （2024 年度：870 件、回答率 88.1%、4 月新 1 年生 987 名）
 調 査 方 法：グーグルフォームを利用した Web アンケート
 回答所要時間：約 15 分
 内 容：入学時の学習や生活の状況を調査。

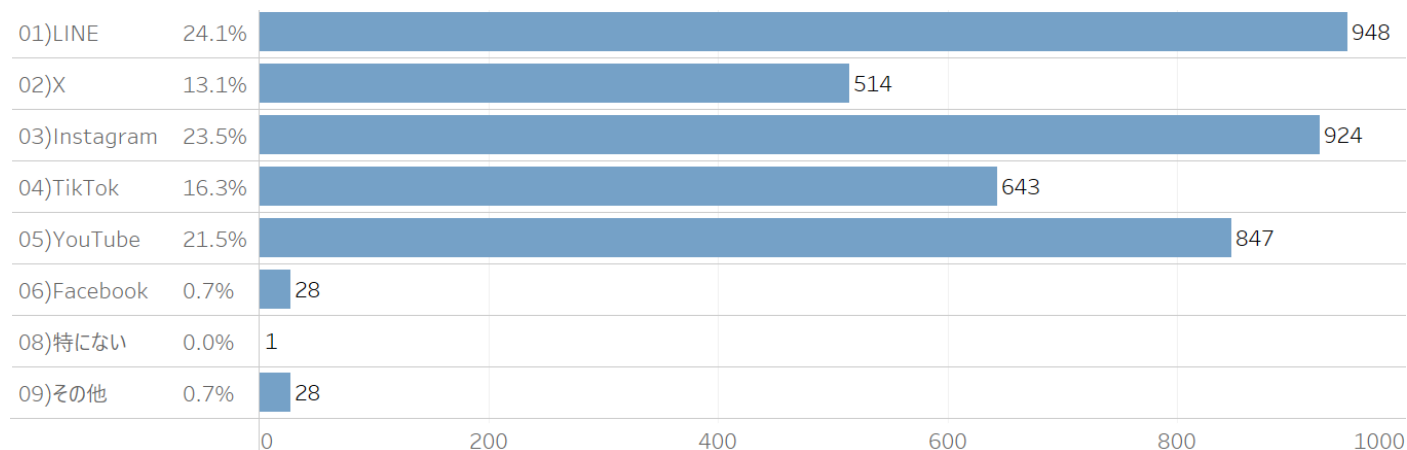
神田外語大学の志望順位を教えてください。【Q32】

⇒約 8 割が第 1 志望。

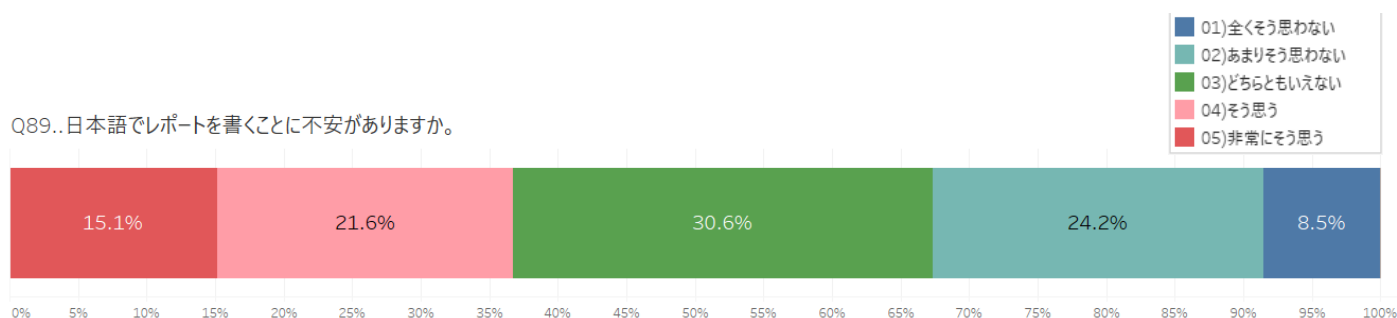


現在、日常的に使用している SNS を教えてください。（複数回答可）【Q75】

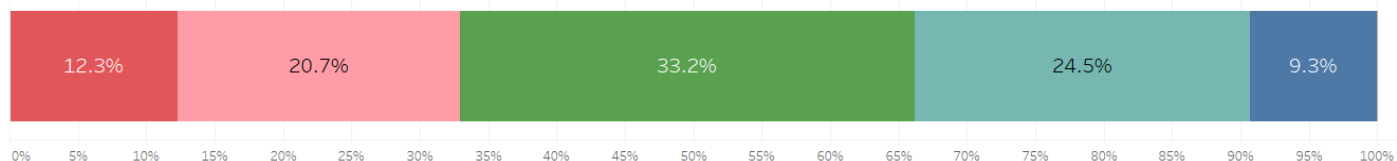
⇒LINE、インスタグラム、ユーチューブの順で使用している。



Q89..日本語でレポートを書くことに不安がありますか。

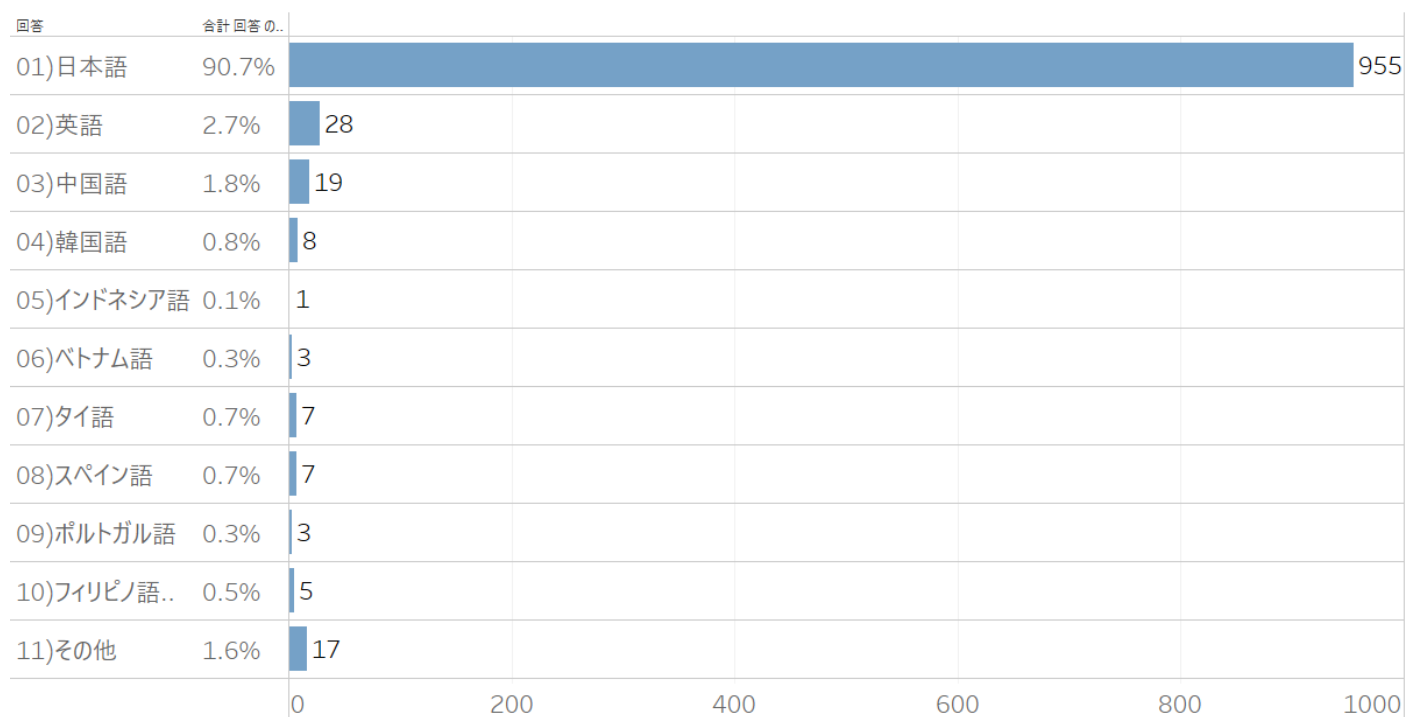


Q88..日本語の語彙力に不安がありますか。



普段の生活で、保護者・家族とは何語を使っていますか。該当するすべての言語を選択してください。(複数回答可)【Q90】

⇒日本語の他には、英語、中国語、韓国語の順で使用している。



「THE 日本大学ランキング 2025」

私立大学 総合で、全国 8 位にランクイン、

私立大学 教育充実度は、全国 3 位。国際性は、千葉県内 1 位。

Kanda University of International Studies, Chiba, Japan
神田外語大学

総合ランキング

Japan University
Rankings

Powered by **THE**

私立
大学中

8 位

(全大学中 35 位タイ)

分野別ランキング

教育充実度
(84.0 points)

私立
大学中

3 位

(全大学中 9 位タイ)

国際性
(85.1 points)

千葉
県内

1 位

(全大学中 18 位)

神田外語大学(千葉県美浜区／学長：宮内孝久)は、2025 年 4 月 3 日(木)に発表された「THE 日本大学ランキング 2025」において、「総合ランキング」では私立大学で全国 8 位(国公立も含む全体 35 位タイ)、「教育充実度」では私立大学で全国 3 位(国公立も含む全体 9 位タイ)、そして「国際性」では私立大学で全国 11 位(国公立も含む全体 18 位)／千葉県内 1 位という結果となりました。1987 年の開学以来、注力してきた、高度な外国語運用能力と世界で活躍するための国際教養・コミュニケーション能力を育む人材教育が高く評価された結果となりました。

大学情報・機関調査研究会（MJIR）発表要旨

大学情報・機関調査研究会（MJIR）研究集会において、本学のIR部門が発表しましたので、その要旨をここに掲載いたします。

大学情報・機関調査研究会 MJIR (Meeting on Japanese Institutional Research) とは

日本の高等教育機関および研究機関の自律的運営と、その発展に寄与する機関調査 (Institutional Research) を推進・支援する研究会。2012年より活動を開始。IRの事例紹介や研究発表を通じて、日本におけるIRの推進に寄与するとともに、経営学や統計学、情報科学など、関連する分野の研究者や実務家および教育者の人的交流の促進とネットワーク形成を図っている。

神田外語大学における大学 IR コンソーシアム共通調査の活用

～ アンケートデータ基盤システム「IRiS」の使用 ～

Utilization of the University IR Consortium Common Survey

at Kanda University of International Studies :

Application of the Questionnaire Data Platform System "IRiS"

寺澤岳生* (神田外語大学)

*terazawa@kandagaigo.ac.jp

抄録

神田外語大学では、2016 年に大学 IR コンソーシアムに加盟し共通調査を実施することで、学生アンケートの結果から自大学の実態を把握すると共に学外(加盟校)との比較を行い自学の教育の改善に役立てている。本稿では、学内での学生アンケート実態調査の導入から現状の 2024 年までの取り組みの内容、大学 IR コンソーシアム共通調査やアンケート基盤システム「IRiS」の使用、自学の会議体や報告会での活用などについて報告や情報共有する。

キーワード: 学生アンケート実態調査, 大学 IR コンソーシアム共通調査, アンケートデータ基盤システム, アンケート結果ダッシュボード, IRiS 可視化

1. 本発表の目的と課題

本発表では、神田外語大学(私立大学、中小規模、2 学部、学生数約 4,000 名)が実施している学生アンケートの結果を、大学 IR コンソーシアム[1]の共通調査を活用して、学外の会員校全体や大学規模別と比較した事例を報告する。近年、日本の大学では教育の質保証や情報公表が課題となっている。各大学にどのような強みや特色があるか、どのような学修成果を上げているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分であるとの指摘がなされている。文部科学省の答申[2]では、学修者本位の教育へ転換を図るとともに、各大学における教育成果や教学に係る取り組み状況等の大学教育の質に関する情報を可視化・把握していくことの重要性が指摘されている。また、社会が理解し易いよう、学生アンケート調査や大学機関調査を通じて整理し、比較できるよう公表すべきとの提言もなされている。

日本では、IR 活動の普及に伴い、各大学での学生アンケート調査の取り組みが一般化してきたが、共同調査や大規模な網羅的調査は未だ少ない。そのような課題に対処するため、大学 IR コンソーシアムは共通の学生調査を研究開発し、結果を大学間で共有・活用する仕組みを構築している。本学も 2016 年に加盟し、共通調査を実施することで、自大学の実態の把握や、学外(会員校)との比較を行い、教育改善に役立てている。

本発表では、本学における学生アンケート実態調査の導入から現在までの取り組み内容、大学 IR コンソーシアム共通調査やアンケートデータ基盤システム「IRiS(アイリス)」の使用、自学の会議体や報告会での活用方法などについて情報共有する。

2. 大学 IR コンソーシアムについて

大学 IR コンソーシアムは、2009 年度文部科学省戦略的大学連携支援事業「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出：国公立 4 大学 IR ネットワーク」を前身としている。この事業では、共通の学生調査の開発、学生調査結果を大学間で共有・活用するシステムの開発、IR 人材育成のためのワークショップの企画運営等について取り組んだ。2012 年には、これらの事業を継続的・発展的に継承する目的で、任意団体「大学 IR コンソーシアム」を設立した。その後、2018 年 4 月に、非営利型の「一般社団法人大学 IR コンソーシアム」となった。

大学 IR コンソーシアムは、学生調査分析を軸とする IR 機能の開発を基盤として、IR を通じた会員間での相互評価、学士課程教育の質的向上に結びつける質保証システムの創出、全国規模の IR コミュニティの育成を目的としている。主な活動内容を以下に示す。

- (1) 学生調査のマネジメント
- (2) 学生調査を基にした教育成果の測定指標及び方法の開発
- (3) IR 人材育成と教学 IR の啓発活動
- (4) IR 関係情報収集及び情報発信
- (5) 大学連携推進のための広報活動

2024 年 5 月時点で、全国の国公立 64 大学(国立 9 大学、公立 10 大学、私立 45 大学)が加盟しており、以下の図 1 の組織体制で運営している。

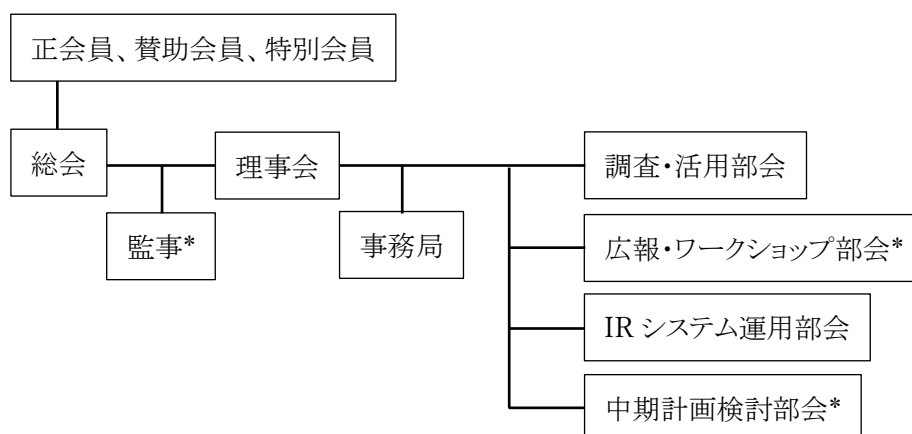


図 1 大学 IR コンソーシアム組織体制

注釈 *印は筆者の担当や所属する部会

3. 神田外語大学の学生アンケート

大学 IR コンソーシアムの共通調査に参加の理由としては、各部署がそれぞれ散発的に実施していた学生アンケートをまとめたい、他大学との比較ができるという点が挙げられる。参加に際して学内からは特に大きな反発はなかった。2016 年からは、本学が大学 IR コンソーシアムの共通調査に参加したことを契機に、IR 部門が学習活動や時間外学修時間、大学での経験や満足度などを取りまとめて調査を実施するようになった。2020 年 4 月に、IR 推進室が学長室に統合され IR 推進チームとなることにより、学内の各部署から希望する設問のニーズを集め易くなったことや、大学執行部会議に参加できるようになり年数回 IR 関係の情報(学生アンケート、IR 機関調査報告書、THE ランキング結果など)を定期的に報告ができるようになった。そして、2023 年 9 月には、本学でもアセスメント部会が新設され、アセスメントに IR データが使われるようになってきた。また、IR 部門が質保証・質向上委員会にも参加するようになった。神田外語大学 学長室 IR 推進チーム[3]が実施や関係しているアンケート実態調査を下記の図 2 に示す。

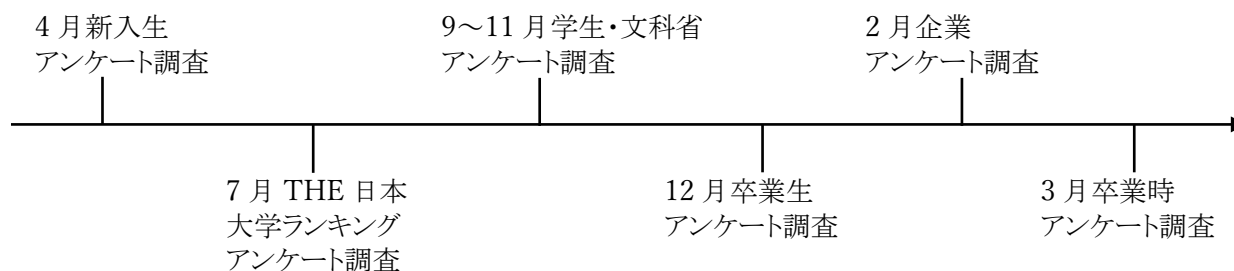


図 2 神田外語大学 学長室 IR 推進チームの実施・関係アンケート調査

4 月の新入生アンケートでは、主にオープンキャンパス、志願から入学までのきっかけや動機、入学後の不安感を調査、9～11 月の学生アンケートでは、学習活動や時間外学修時間、大学での経験や満足度などを調査、3 月には、卒業時アンケートで DP 達成度の自己認識、大学の満足度等を調査している。

3.1. 学生アンケートの調査項目

本学の学生アンケートは、毎年 9～11 月に実施しているが、表 1 より共通調査に合わせ 1 年生調査、上級生(2～4 年生)調査の 2 つを行っている。また、並行して、文部科学省全国学生調査も実施している。2023 年度より、文科省全国学生調査は専用の URL から回答するだけでなく、各大学でアンケートを行いその結果を提出する方法も用意されたので、今後は本学でも学内のアンケート本数を削減するため、学生アンケートの中に設問を組み込む形で実施することを検討している。

会員校(全体、規模別、分野別等)と自大学の学生調査の結果を比較することで、自大学の特徴を見出すことができる。また、学内にある教学データとリンクさせることができ、GPA や修得単位数、英語検定のスコア等と、学生アンケート調査から得られる結果データを組み合わせることもできる。共通調査は、米国の大学生調査 NSSE(National Survey of Student Engagement)や CIRP(Cooperative Institutional Research Program)を参考に作られている。

大学 IR コンソーシアム共通調査では、マークシートでの実施も対応しているが、本学は集計や学籍番号の入手の確実性から Google フォームで実施している。アンケートへの回答者には抽選でスターバックスのギフト券を配布している。本学の学生アンケートの回答率は、例年 30%前後である。

表 1 学生アンケートの調査項目

調査名	神田外語大学 学生アンケート調査		
調査対象	学部 に所属する 1 年生、上級生 (2～4 年生)		
調査時期	毎年 9 月～11 月上旬		
調査主体	学長室 IR 推進チーム		
調査項目	共通調査設問		KUIS 独自設問
	1 年生	授業経験、学習行動、受講態度、正課内外の活動時間、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル大学生活、大学教育に対する満足感、将来イメージ、入学前の学習経験	海外短期研修、長期留学、大学からのお知らせの確認頻度、睡眠時間、朝食について、推奨度 (NPS)、大学への意見、DP について
	上級生	授業経験、・・・将来イメージまでは同上。上級生は、「入学前の学習経験」の代わりに、「在学中に経験したいこと」が入る。	海外短期研修、・・・大学への意見までは同上。上級生は、「DP について」の代わりに、「生成系 AI について」が入る。

3.2. 学生アンケート結果の集計、可視化

本学では、図 3 より Google フォームで収集したアンケート結果データを Excel データで出力し、Excel や Tableau Prep で前処理を行い、大学 IR コンソーシアムのアンケート集計システムの「IRiS (アイリス)」にアップロードすることで、可視化や分析を行っている。IRiS はウィングアーク社の Motionboard と Dr. Sum で作られており、会員校約 64 大学のアンケート調査データと学生情報 (GPA、修得単位数、英語検定のスコア等) を、学籍番号は暗号化してデータをアップロードしている。

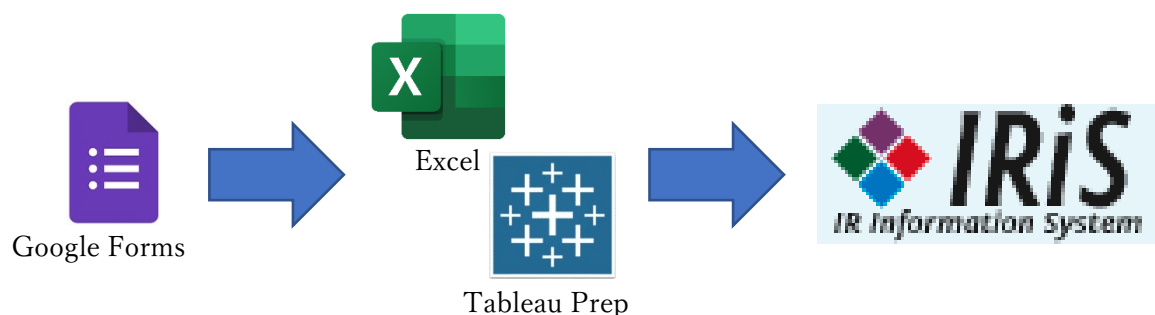


図 3 学生アンケートの集計・可視化の処理フロー

教学 IR 情報を多角的に捉えるための IRiS のグラフィックアウトについては石川[4]が発表している通りである。以下の図 4-a、図 4-b には、本学での IRiS システムによる可視化の事例を示す。「取りたい授業を取れなかった」という設問のケースでは、図 4-a のように経年で改善が見られたとしても、図 4-b のように他大学に比べると「頻繁にあった、時々あった」の合計が学外の大学 IR コンソーシアム会員校の全大学や中規模大学 (収容定員: 4,000～7,999 人) に比べ約 10 ポイント高いという場合もあり、IRiS は更なる改善点を見つけることに役立っている。

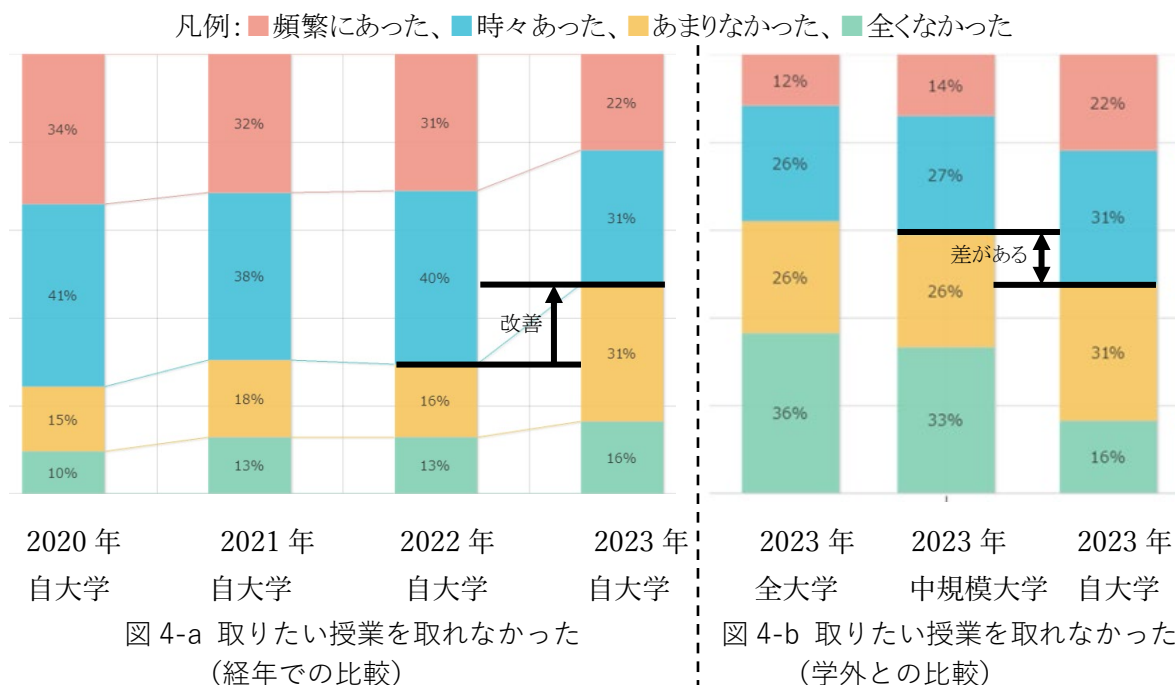


図 5 のように、IRiS には折れ線グラフでアンケート結果を可視化する機能もある。本学の 2023 年度上級生アンケート調査結果の場合では、設問「2 年次生または 3 年次生を対象としたゼミ (演習) などの教育内容」において大学 IR コンソーシアム全会員校や中規模大学と比べると平均値で 0.24 ポイントスコアが低いことが分かった。

ゼミについては本学では学長や執行部が注目している。2025 年度にゼミが必修化される計画があり、執行部会議やアセスメント部会でも継続的に確認していく予定である。IRiS には、この他にも様々なグラフのレイアウトが用意されており、それらを組み合わせることで、各大学の用途に合致した可視化が実現できるようになっている。

凡例：○大学 IR コンソーシアム全会員校、□大学 IR コンソーシアム会員校
の中で中規模大学、△自大学

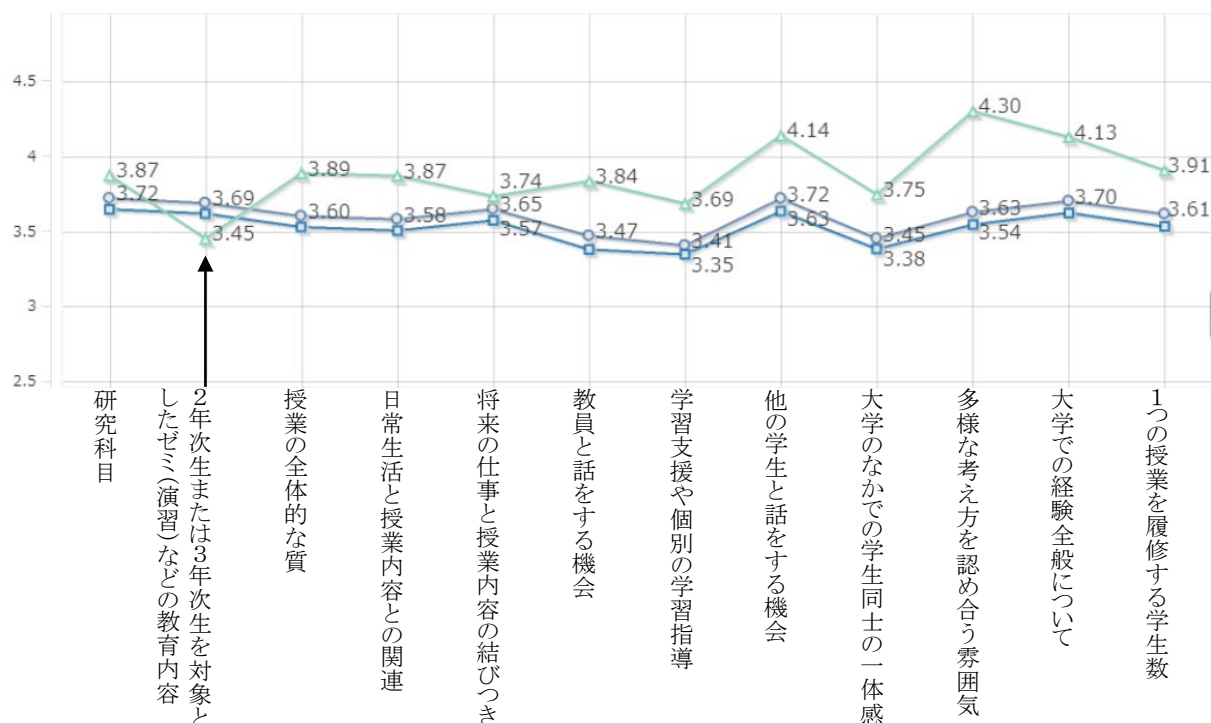


図 5 教育への満足度（2023 年度 上級生アンケート調査結果のスコア平均値の折れ線グラフ）
5 件法（1.とても不満、2.不満、3.どちらでもない、4.満足、5.とても満足）

3.3. 学生アンケート結果の活用、報告

本学においては、学生アンケート結果は、IRiS で大まかな当たりを確認し、その後、必要な際は、学科別や入試区分別など詳しい分析を行い、そして以下の表 2 に示す方法で報告を行っている。執行部会議では、アンケート結果のスコアの低い設問や他大学と比較して改善の余地がある部分に重きをおき報告をしている。執行部会議でも説明の時間が伸びるなど関心を持たれるようになってきた。そして、2023 年度からは質保証やアセスメントプランの中にも組み込まれるようになった。また、夏期の学内報告会では結果のフィードバックだけでなく、後期のアンケート調査への協力も呼びかけるように心掛けている。本学の IR 部門では、資料として残すために、IR 年次報告書(調査結果の抜粋、部門の活動状況等)を作成し保管している。

表 2 学生アンケート結果の報告について

名称	時期	対象	内容
執行部会議	年 2 回（春・秋）	大学執行部	資料スライドと説明
質保証委員会	年 2 回（春・秋）	委員メンバー	資料と補足説明
アセスメント部会	年 2 回（春・秋）	部会メンバー	アセスメントプランに組入
学内報告会	年 1 回（夏）	教職員（30～60 名）	プレゼン形式で説明
結果報告チラシ	年 1 回（冬～春）	学生、教職員	資料配布
IR 年次報告書	年 1 回（夏）	ホームページ掲載	資料掲載

本学の 2023 年度アンケート結果では、満足度について更なる深掘り調査と分析を行うことで、図 6 のように総合的な満足度に連動する設問やそうでない設問を調べることができた。(図 6 の満足度と重要度の尺度の範囲は、0 から 100 である。)

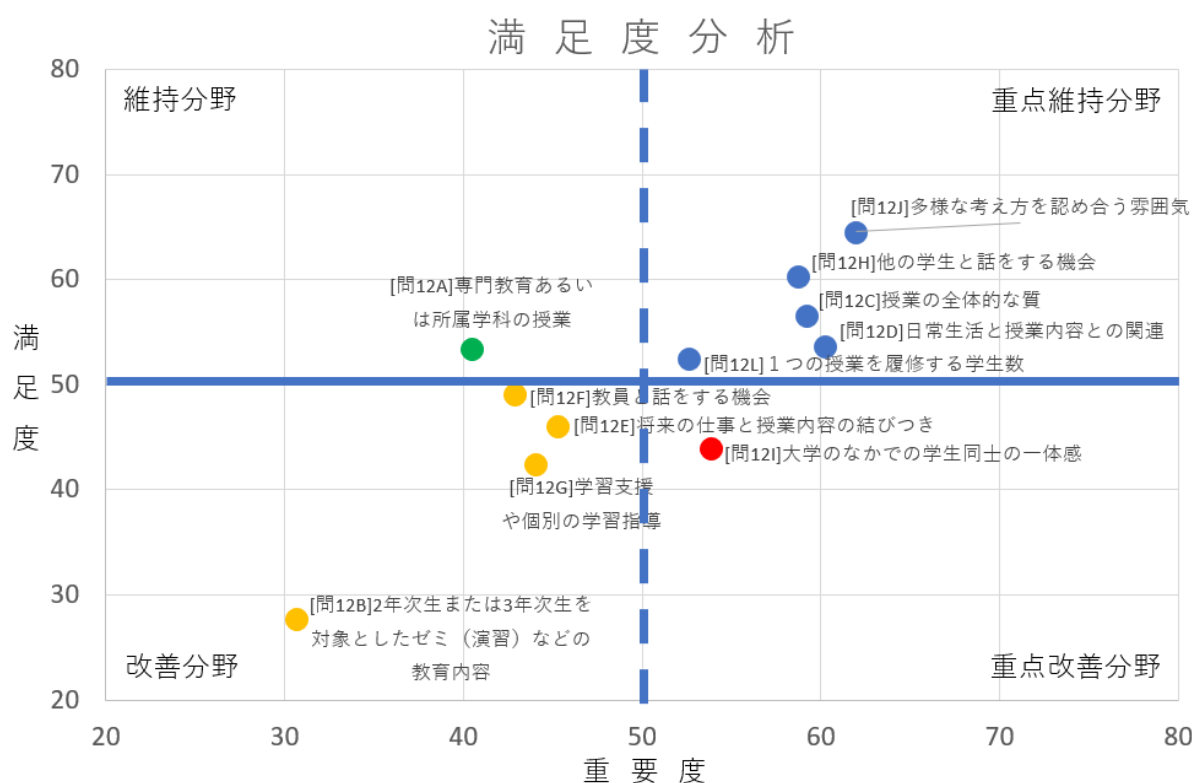


図 6 満足度分析 (2023 年度、上級生アンケート調査)

4. まとめ

本稿では、神田外語大学における大学 IR コンソーシアム共通調査の導入から現状の 2024 年までの取り組みを報告した。共通調査に参加することで、会員校で開発した設問や選択肢を共用し、アンケート結果を学外(会員校)と比較することが可能となった。また、アンケート結果と教学データを組み合わせて可視化や分析を行うアンケートデータ基盤システム「IRiS」を活用することで、分析や報告に充てる時間を増やすことができた。さらに、会員校同士のネットワークを通じてセミナーやシンポジウムで情報共有や意見交換を行い、学外の知見を自学に取り入れることができるというメリットも享受している。また、「取りたい授業を取れなかった」という設問のような自学のアンケート結果に改善が見られたとしても、学外(全会員校や中規模の会員校群など)との比較を通じてさらなる改善の余地があることが分かるようになった。共通調査の限界点としては、会員校との比較であり、文科省の全国学生調査の規模には至っておらず、代表性については、今後本格調査が始まる文科省学生調査の全体集計との比較も考えていきたい。今後の展望として、2025 年度より本番調査が始まる文部科学省 全国学生調査にも対応していくようにし、そして共通調査にも設問を組み込むことを大学 IR コンソーシアムに提案していきたいと考えている。

参考文献

- [1] 大学 IR コンソーシアム, “大学 IR コンソーシアムについて,” [オンライン]. Available: <<https://irnw.jp/>> [accessed 2024-07-06].
- [2] 文部科学省 中央教育審議会, “2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申),” [オンライン]. Available: <https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm> [accessed 2024-07-06].
- [3] 神田外語大学 附属図書館, “神田外語大学 IR 年次報告書 2023,” [オンライン]. Available: <https://kuis.repo.nii.ac.jp/record/2000119/files/IRAR_2023.pdf> [accessed 2024-10-08].
- [4] 石川貴彦, “教学 IR 情報を多角的に捉えるためのグラフィケイアウトと解説付与の方法,” 大学評価と IR, 15 巻, pp. 3-12, 2022.

神田外語大学 IR 部門の目的・活動内容（職務分掌）

目的

神田外語大学の運営上の意思決定および計画立案をサポートする。

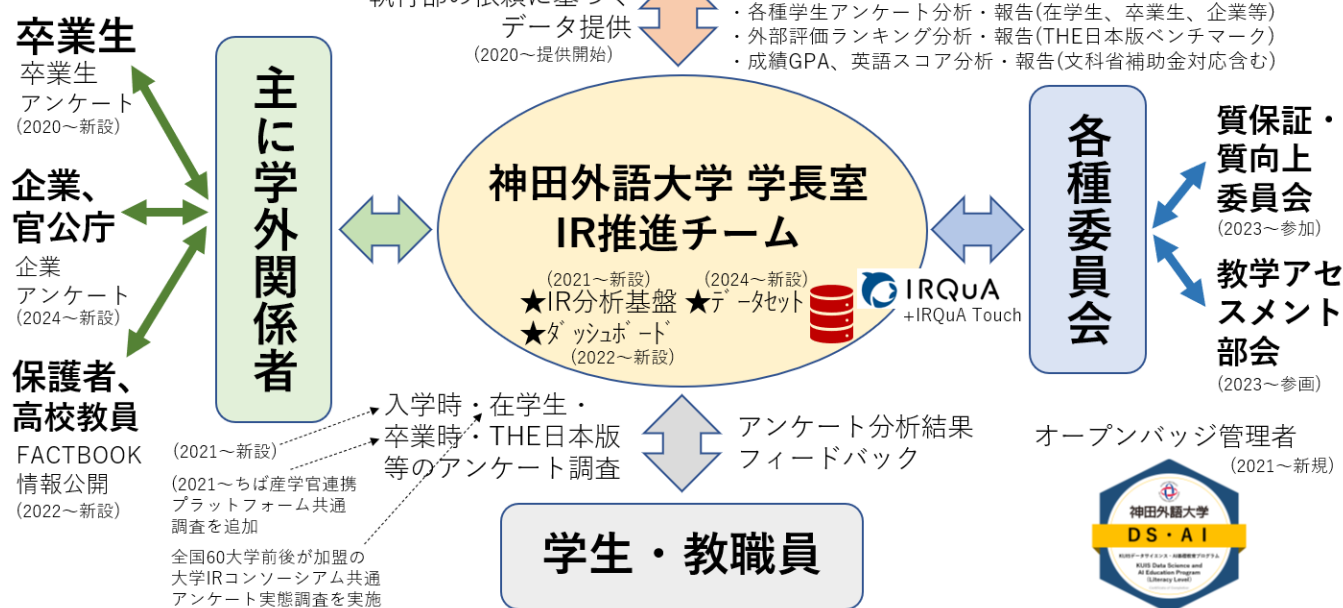
職務（概要）

支援に必要な情報の収集・分析・提供・保管を行う。

イメージ図

神田外語大学 IR部門 概要

2023年9月～



備考

※大学 IR 部門は、意思決定や計画立案までは行わない。(意思決定のための情報提供を目的としている)

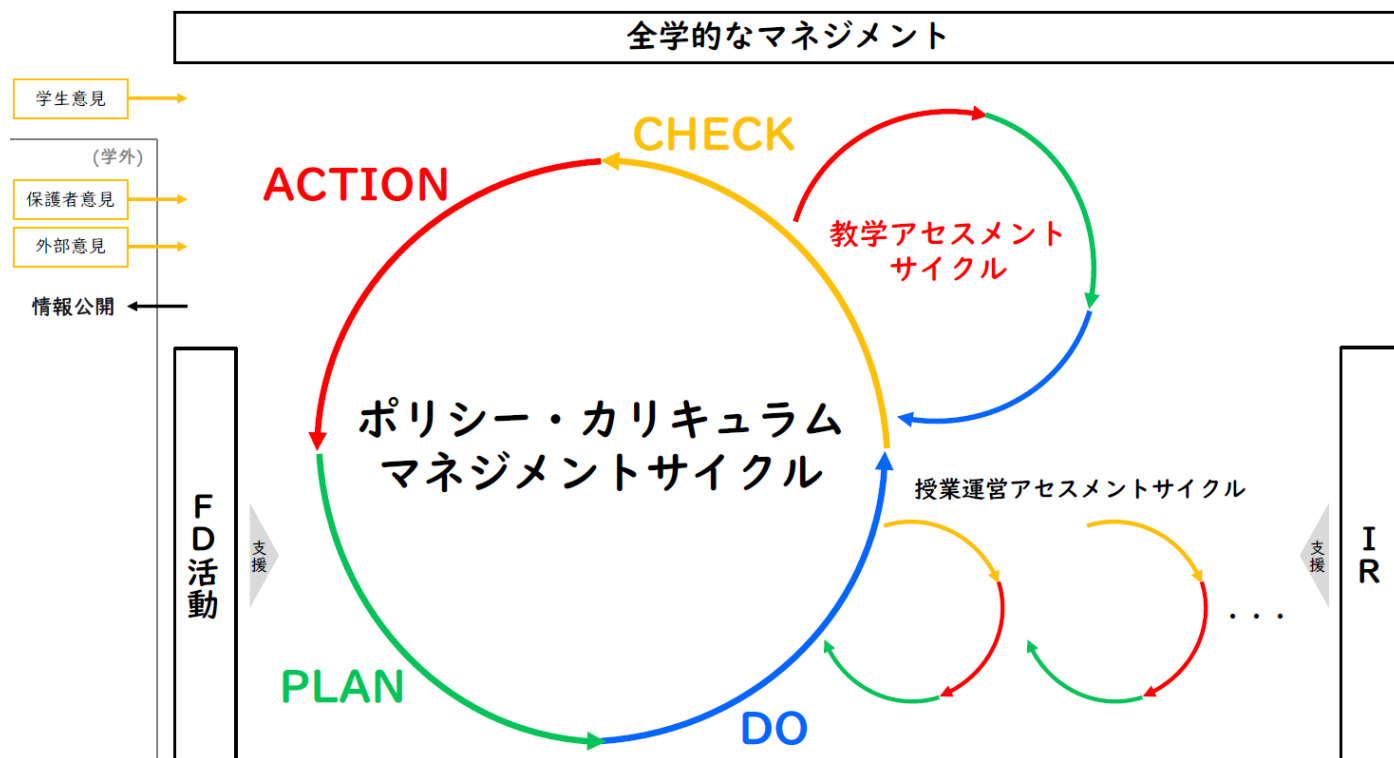
※大学 IR 部門は、個別業務を支援するのではない。(個別業務のためのデータ提供が目的ではないため)

※大学 IR 部門は、各部署の 1 次データの修正までは行わない。(IR 部門はリードオンリーの情報系システムのため)

神田外語大学 教学マネジメント体制について

2023 年度より、IR 推進チームは、質保証・質向上委員会、教学アセスメント部会に参画しています。

教学マネジメント【概念図】



年間スケジュール

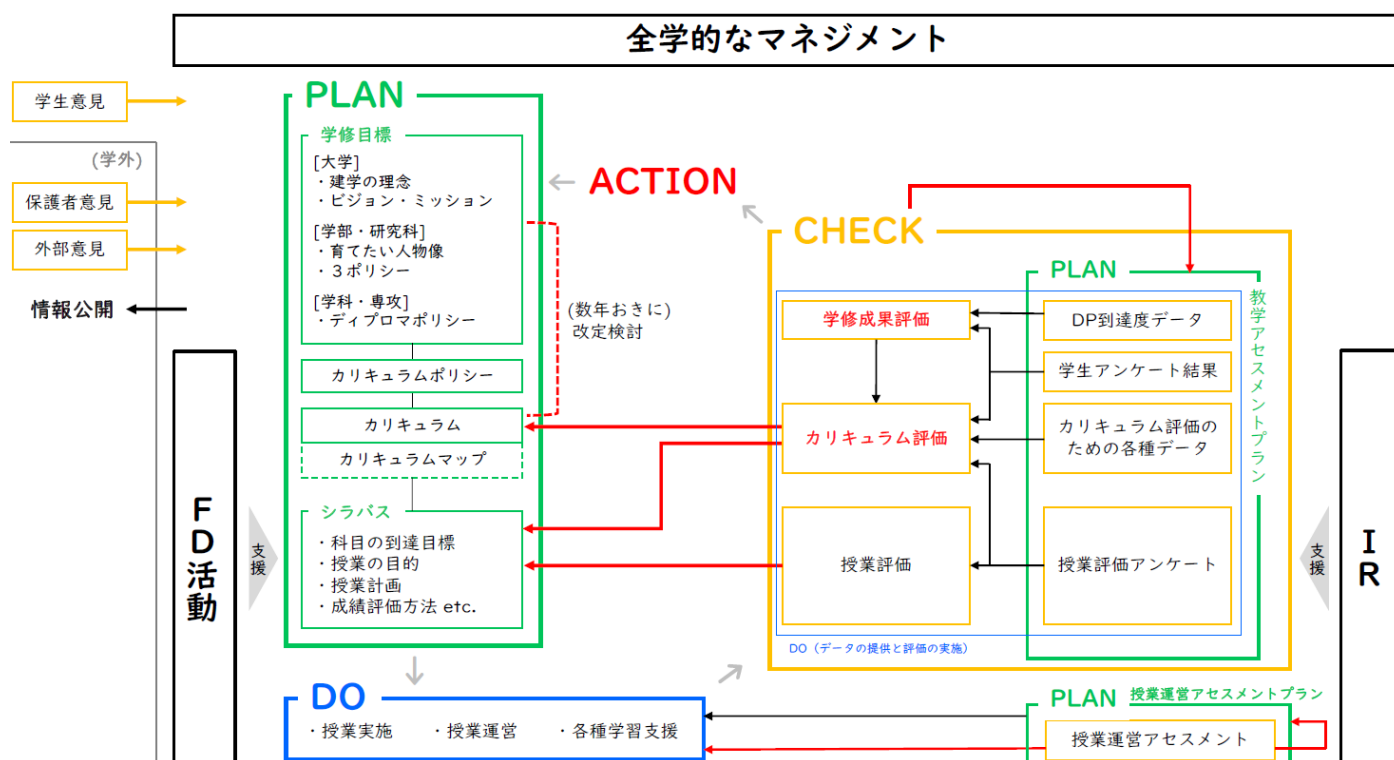
【年間サイクル】

(2025年度以降)進捗状況の記入

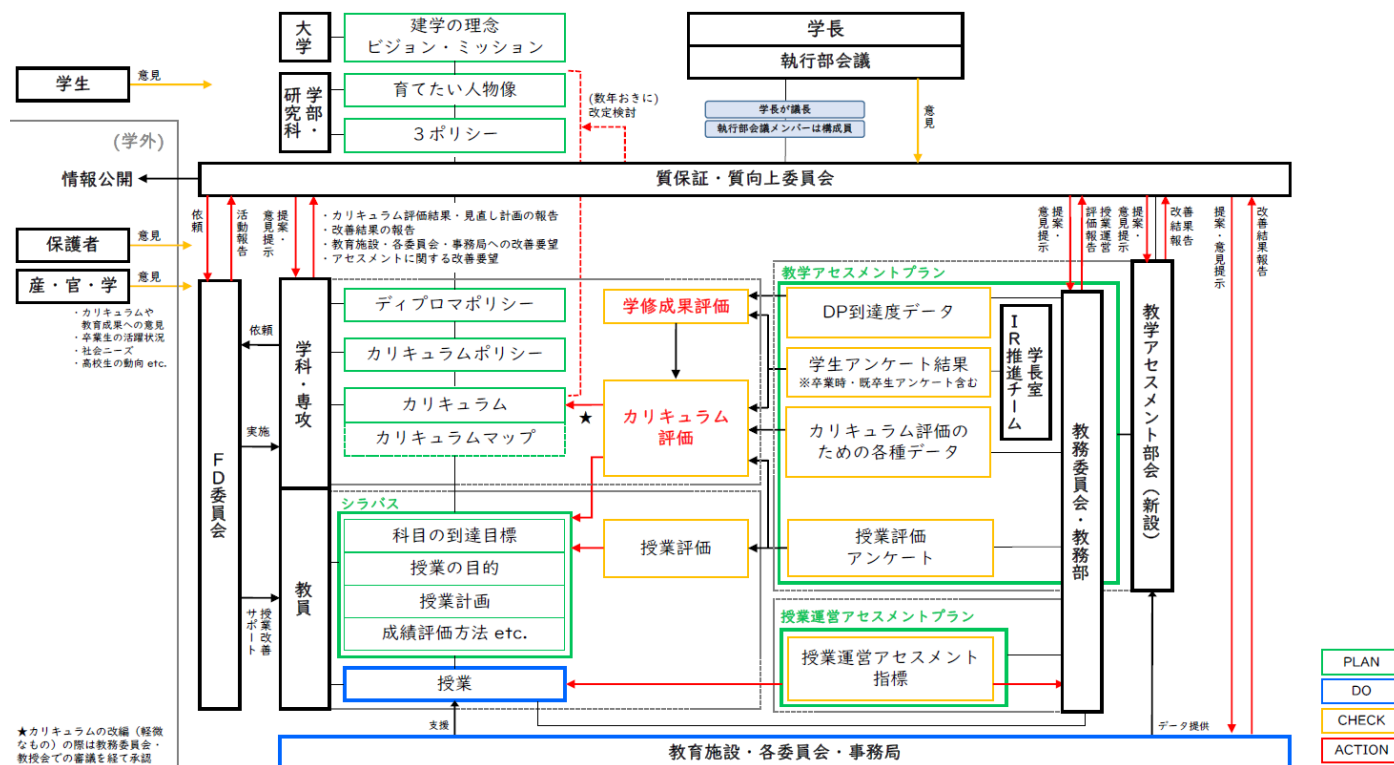
	4～5月	6月	7月	8月	9月	10～2月	3月
学科・専攻	提供	学修成果に関するアセスメント (6～7月科会での意見交換)	報告書作成 (意見交換の内容・今後改善を検討する点など)	報告	参考	カリキュラム運営やシラバス等の改善検討・実行	
質保証・質向上委員会					情報共有・意見交換	報告	意見交換・承認 (アセスメントプラン更新)
教学アセスメント部会					検討依頼	次年度提供データに関する検討 (10～12月)	
事務局	学修成果に関するデータ準備						

データ提供依頼

教学マネジメント【システム】



教学マネジメント【体制】



神田外語大学 学長室 IR 推進チームの主な活動記録（部門の沿革）

2020 年度

- 4 月、学長室 IR 推進チームが設置（旧 IR 推進室が学長室に統合）
- 5 月、神田外語大学 IR 分析基盤の検討開始
- 9 月、大学執行部からの依頼に基づくデータ提供の開始（不定期）
- 12 月、卒業生アンケート本番実施

2021 年度

- 4 月、入学時アンケート本番実施
- 7 月、神田外語大学 IR 分析基盤構築（KUIS データレイク）
- 12 月、オープンバッジ・ネットワーク協会に加盟（KUIS オープンバッジ・アドミニストレーター）
- 1 月、文部科学省 令和 3 年度 全国学生調査 第 2 回 試行調査参加
- 3 月、卒業時アンケート共通調査を開始（ちば産学官連携プラットフォーム）

2022 年度

- 10 月、神田外語大学 IR ダッシュボード KID 正式運用開始（ヴェルク株式会社 IRQuA:イルカ採用）
- 11 月、文部科学省 令和 4 年度 全国学生調査 第 3 回 試行調査参加
- 12 月、オープンバッジ発行開始（KUIS グローバルアンバサダー35 名）
- 2 月、企業アンケート試行調査開始
- 3 月、KUIS 簡易ファクトブック K-Fact 構築・運用開始

2023 年度

- 5 月、アンケートの自由記述分析に AI を活用（株式会社 Monjude AI サービス「Senju」）
- 9 月、教学アセスメント部会（新設）に参加を開始
- 9 月、質保証・質向上員会（定例化）に参加を開始
- 11 月、KUIS IR ダッシュボード KID 入試機能の正式運用開始（VELC 株 IRQuA:イルカ増強）、大学執行部メンバーへの説明会を開催

2024 年度

- 4 月、データマートとして IRQuA タッチを導入し、経年データセット・ダウンロード機能を整備
- 5 月、神田外語大学 教学アセスメントプラン運用開始
- 6 月、日本 IR 協会(JAIR)の会費有料化に伴い賛助会員として正式加盟
- 8 月、教学アセスメント用アンケート・ダッシュボード構築・運用開始
- 10 月、文部科学省 令和 6 年度 全国学生調査 第 4 回 試行調査参加
- 2 月、企業アンケート本番運用を開始

神田外語大学 学長室 IR 推進チームの年間スケジュール（2024 年度）

※年間を通じて、大学執行部会議に、IR データを報告・提供しています。

4 月 新入生アンケート実施（A&C 部、学長室で協働） 新入生アンケート集計作業 前年度卒業時アンケート結果集計・分析作業 全学業務：入学式業務、誘導、フレッシュマン・オリエンテーション引率	10 月、IR コンソーシアム理事会に出席 大学執行部向け IR ダッシュボード説明会 ファクトブック当該年度分の公開 教学アセスメント部会へ在学生アンケート結果を報告 全学業務：入試業務、試験監督
5 月 大学 IR コンソーシアム IRiS システムの前年度「学生情報データ」（5 月）登録作業 IR コンソーシアム 選挙管理委員（村田） THE 日本大学ランキング結果分析ミーティング（2024 年度はスキップ）	11 月、IR コンソーシアム理事会に出席 在学生アンケート回答者への御礼、ギフト券抽選 MJIR 発表（寺澤） 文部科学省全国学生調査（試行調査） 全学業務：入試業務、試験監督
6 月、IR コンソーシアム理事会に出席 大学 IR コンソーシアム 定時正会員総会出席 前年度卒業生アンケート結果集計・分析作業 IR ダッシュボード IRQuA データ抽出作業	12 月、IR コンソーシアム理事会に出席 卒業生アンケート調査実施 教学アセスメント部会対応 次年度 IR 部門予算申請 全学業務：入試業務、試験監督
7 月、IR コンソーシアム理事会に出席 THE 日本版学生アンケート実施（7 月～10 月） THE 日本大学ランキング日本版学内報告会実施 教職員対象学生アンケート報告会実施 KUIS IR 分析基盤システム年度データ投入作業	1 月、IR コンソーシアム理事会に出席 次年度新入生アンケート A&C 部と検討 企業アンケート設計 教学アセスメント部会対応 全学業務：入試業務、試験監督
8 月 在学生アンケート準備作業 KUIS 教育条件・学生状況等（簡易ファクトブック 電子版）データ更新作業 KUIS IR データセット Tableau Prep 改良作業 英語スコアデータセット Tableau Prep 改良作業	2 月、IR コンソーシアム理事会に出席 企業アンケート実施 大学 IR コンソーシアム IRIS システム「共通調査データ」（2 月）登録作業 教学アセスメント部会対応 全学業務：入試業務、試験監督
9 月、IR コンソーシアム理事会に出席 学部教授会で在学生アンケート協力依頼 在学生アンケート調査実施（9 月～11 月） 私立大学等改革総合支援事業、教育の質に係る客観的指標（文科省）IR 関係データの一部を作成 THE 日本大学ランキングデータ作成 質保証委員会へ卒業生・企業アンケート調査結果を報告	3 月、IR コンソーシアム理事会に出席 卒業時アンケート調査実施（ちば産学官連携プラットフォーム共通調査） 新入生アンケート準備 THE 世界大学ランキング結果（速報）資料作成 質保証・質向上委員会 全学業務：卒業式業務、学位記

神田外語大学 学長室 IR 推進チームの主な活動記録（2024 年度）

【執行部、学長・副学長、理事長への報告事項】

- ◆ 5 月 7 日(火)、10 日(金)、学長より依頼、プログラミングと生成系 AI について概要説明(寺澤)
- ◆ 6 月 24 日(月)、副学長報告、私大入試動向(学部別)(寺澤)
- ◆ 6 月 26 日(水)、執行部会議、学生アンケート調査の結果(速報)について(寺澤、村田)
- ◆ 7 月 18 日(木)、質保証委員会、海外渡航経験に関する分析(村田)
- ◆ 9 月 18 日(水)、執行部会議、入試区分別英語スコア(村田)
- ◆ 10 月 2 日(水)、教学アセスメント部会、在学生アンケート調査回答者数(寺澤)
- ◆ 10 月 16 日(水)、執行部会議、教学 IR 機関調査結果表(教学 IR 検診結果票)(寺澤)
- ◆ 11 月 1 日(土)、学長より依頼、ChatGPT サーチ機能について概要説明(寺澤)
- ◆ 1 月 30 日(木)、質保証委員会より依頼、長期留学を希望しない理由(村田)
- ◆ 1 月 30 日(木)、質保証委員会より依頼、入学前後のサポート感(村田)
- ◆ 2 月 26 日(水)、副学長より依頼、4 年生の英語スコアの伸び(村田)
- ◆ 3 月 5 日(水)、副学長より依頼、GLA 学部の入試別平均 GPA(村田)
- ◆ 3 月 14 日(金)、副学長より依頼、IC 学科の留年について(村田)
- ◆ 4 月 2 日(水)、THE 日本大学ランキング結果 E メールにて速報(村田)
- ◆ 4 月 25 日(金)、THE 日本大学ランキング結果分析会、録画データ報告(村田)

【学内への報告、学内の委員会、IR 定例ミーティング】

- ◆ 6 月 17 日(月)、次年度、新教務システム GAKUEN 説明会(学籍情報関係)(寺澤、村田)
- ◆ 7 月 31 日(水)、学内 IR 説明会、在学生アンケート 概要説明(寺澤、村田)
- ◆ 9 月 5 日(木)、質保証・質向上委員会、卒業生、企業アンケート報告(寺澤、村田)
- ◆ 5/20、6/17、7/22、10/21、12/16、2/17、IR 定例ミーティング(寺澤、村田、井芹、石井)
- ◆ 10 月 2 日(水)、教学アセスメント部会(寺澤、村田)
- ◆ 11 月 6 日(水)、教学アセスメント部会(寺澤、村田)
- ◆ 2 月 21 日(金)、認証評価プレ点検会議(寺澤、村田)
- ◆ 3 月 6 日(木)、質保証・質向上委員会(寺澤、村田)

【学外への報告発表、コンサルティング】

- ◆ 10 月 12 日(土)、日本 IR 協会 JAIR 定例研究会、
「Tableau DATA Saber について」(発表：寺澤)
- ◆ 11 月 8 日(金)～10 日(日)、大学情報・機関調査研究会 MJIR、
「神田外語大学における大学 IR コンソーシアム共通調査の活用」(発表：寺澤)
- ◆ 12 月 12 日(火)、大学 IR コンソーシアム講習会、
「学生アンケート分析 -CS 分析編-」(講師：寺澤)
- ◆ 12 月 21 日(土)、日本 IR 協会 JAIR 定例研究会、
「LLM 大規模言語モデル Deep Learning 講座について」(発表：寺澤)
- ◆ 3 月 22 日(土)、日本 IR 協会 JAIR 定例研究会、
「DATA Saber Bridge 3rd - 3 ヶ月間の学び -」(発表：寺澤)

【学外の委員会、ミーティング】

- ◆ 4 月 24 日(水)、IRI ラボ、IRQuA 新機能開発ブレインストーミング(名古屋大 和嶋先生、VELC 株、寺澤)
- ◆ 4 月 30 日(月)、IR コンソーシアム、理事選挙業務(村田)
- ◆ 5 月 23 日(木)、IR コンソーシアム、Google フォーム調査票の雛形提供：N 大学(寺澤)
- ◆ 5 月 29 日(水)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：T 大学(寺澤)
- ◆ 6 月 6 日(木)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：S 大学(寺澤)
- ◆ 6 月 21 日(金)、IR コンソーシアム、総会(寺澤、村田)
- ◆ 7 月 22 日(月)、IR コンソーシアム、中期計画部会会議(寺澤)
- ◆ 7 月 24 日(水)、IR コンソーシアム、広報部会会議(寺澤)
- ◆ 8 月 21 日(水)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：N 大学(寺澤)
- ◆ 8 月 22 日(木)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆ 9 月 10 日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆ 9 月 12 日(木)、IR コンソーシアム、広報部会としてオンライン説明会：N 大学(寺澤)
- ◆ 10 月 8 日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)

- ◆11月12日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆12月10日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆1月21日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆2月18日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆3月11日(火)、ちば産学官連携プラットフォーム(村田)
- ◆6/21、7/30、9/17、10/15、11/15、12/23、1/21、2/17、3/18、IRコンソーシアム理事会(監事寺澤)

【来客、視察、講演会の開催、見学(KUIS IR部門)】

- ◆5月10日(金)、S大学 総合企画部様、KUIS IR部門の視察、教学IRの意見交換(寺澤、村田)

【学内外の委員、役員】

- ◆一般社団法人 大学IRコンソーシアム 選挙管理委員会 選挙管理委員(村田)
- ◆一般社団法人 大学IRコンソーシアム 中期計画検討部会 副部会長(寺澤)
- ◆一般社団法人 大学IRコンソーシアム 広報・ワークショップ部会 委員(寺澤)
- ◆一般社団法人 大学IRコンソーシアム 理事会 監事(寺澤)
- (全国60大学前後が加盟のIR関係コンソーシアム) <https://irnw.jp/>
- ◆GPS-Academic ラボ 委員(フェロー)(寺澤)
- ◆アセスメント部会委員(寺澤、村田)、質保証・質向上委員会委員(村田)
- ◆神田外語大学 オープンバッチ管理者(寺澤)

【研究会、分科会、研修、セミナー、シンポジウム参加】

- ◆6月11日(火)大学IR実質化に向けた基礎・応用・実践(ビズアップ総研)(寺澤、村田)
- ◆6月20日(木)デジタル証明書システム関係セミナー(JAST 日本システム技術株式会社)(寺澤)
- ◆7月14日(日)共分散構造分析SEM(和から株式会社)(寺澤)
- ◆7月23日(火)Tableau 大学ユーザー会(寺澤、村田)
- ◆7月25日(木)エンロールマネジメント・アンケートシステムセミナー(Qualtrics)(寺澤)
- ◆8月2日(金)IRデータ可視化講習会(九州工業大学 大石先生、小樽商科大学 西出先生)(寺澤、村田)
- ◆9月4日(水)FD講習会(合理的配慮)(寺澤、村田)
- ◆9月19日(木)～20日(金)大正大学 EMIR、大学IRコンソーシアム合同シンポジウム(寺澤、村田)
- ◆12月26日(木)主成分分析＋クラスター分析(和から株式会社)(寺澤)
- ◆2月28日(金)因果推論セミナー(広島大学)(寺澤)
- ◆5/18、6/15、7/6、8/3、9/14、10/19、10/20、山形大学 OIRE オンライン特別聴講生
- ◆4/24、5/15、6/19、7/17、8/21、9/20、10/16、11/20、12/18、1/15、2/19、3/19、オープンバッジ・ネットワーク定例大学分科会
- ◆6/1、8/3、10/12、12/21、3/22、日本IR協会(JAIR)定例研究会

【履修証明プログラム、資格、認定など】

- ◆9月4日(水)～12月15日(水)
大規模言語モデル(LLM) Deep Learning 講座 履修証明プログラム取得(東京大学 松尾研究室)(寺澤)
- ◆11月11日(月)～2月9日(日)、2月28日(金)修了式参加
DATA Saber 認定プログラム取得(寺澤)

【特記事項、その他、大学業務】

- ◆4月、入学式業務(誘導・学生証配布)※準備・封筒への封入作業・当日運営・撤収
- ◆4月、フレッシュマン・オリエンテーションキャンプ引率業務(4/4～5 村田、4/13～14 寺澤)
- ◆4月、IRダッシュボードのデータセット抽出機能「IRQuA Touch」(イルカタッチ)を導入システム増強
- ◆5月、神田外語大学 教学アセスメントプラン運用開始
- ◆6月、日本IR協会(JAIR)コラム執筆、掲載「TableauとPrepを使った二極分散型積上げ横棒グラフ(Diverging Stacked Bar Chart)の簡易的な作成方法(選択肢が4択の場合)」
- ◆7月、企業アンケートの自由記述分析にChatGPTを活用
- ◆10月、入試業務(総合型選抜)※設営・当日運営・撤収
- ◆10月、教務システムの更新(Campus Mate から GAKUEN)に伴うIR基盤システムの変更検討
- ◆11月、入試業務(学校推薦型選抜)※設営・当日運営・撤収
- ◆11月、スピーチコンテスト表彰式業務(ベトナム語)
- ◆11月、在学生アンケートの改善案を企画(寺澤)※ギフト券配布の写真撮影、次年度へのポスター掲載
- ◆11月、IRダッシュボード「IRQuA(イルカ)」の「フィールドマッピング(新GAKUEN改訂版)」を作成
- ◆12月、防災訓練業務(学生・教員誘導、アナウンス等)
- ◆12月、河添先生のTableauアカデミックライセンス手配

- ◆ 1 月、入試業務（大学入学共通テスト）※設営・当日運営・撤収
- ◆ 2 月、入試業務（一般入試）※設営・当日運営・撤収
- ◆ 3 月、入試業務（一般入試）※設営・当日運営・撤収
- ◆ 3 月、卒業式業務（学位記業務）※設営・当日運営・撤収
- ◆ 4 月、THE 日本大学ランキング結果分析会（進研アド株、学長室）

【アンケート調査、年間を通じて】

- ◆ 4 月 3 日（水）～ 4 月 15 日（月）、新入生アンケート調査
- ◆ 7 月 1 日（月）～10 月 31 日（木）、THE 日本大学ランキング 学生調査
- ◆ 9 月 11 日（水）～11 月 6 日（水）、在学生アンケート調査（1 年生、上級生）
- ◆11 月 11 日（月）～12 月 16 日（月）、文部科学省 全国学生調査
- ◆12 月 2 日（月）～ 2 月 25 日（火）、卒業生アンケート調査
- ◆ 1 月 15 日（水）～ 2 月 12 日（水）、企業アンケート調査
- ◆ 3 月 19 日（水）～ 3 月 26 日（水）、卒業時アンケート調査

【オープンバッジ発行実績】

- ◆2022 年度
 - ・ 2 月 1 日（木）、KUIS グローバルアンバサダー2022 (KGA) 修了証（36 枚）（部門：国際戦略部）
- ◆2023 年度
 - ・ 2 月 1 日（木）、KUIS グローバルアンバサダー2023 (KGA) 修了証（42 枚）（部門：国際戦略部）
 - ・ 3 月 1 日（金）、KUIS データサイエンス・AI 基礎教育プログラム 2023 修了証（5 枚）（部門：学長室）
- ◆2024 年度
 - ・ 2 月 6 日（木）、KUIS グローバルアンバサダー2024 (KGA) 修了証（61 枚）（協働：国際戦略部）
 - ・ 2 月 27 日（木）、KUIS データサイエンス・AI 基礎教育プログラム 2024 修了証（71 枚）（協働：学長室）

【紹介】

◆神田外語大学 教育条件、学生の状況等のグラフ（簡易ファクトブック電子版）

⇒神田外語大学 情報公表ホームページ

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

画面中段のアイコン

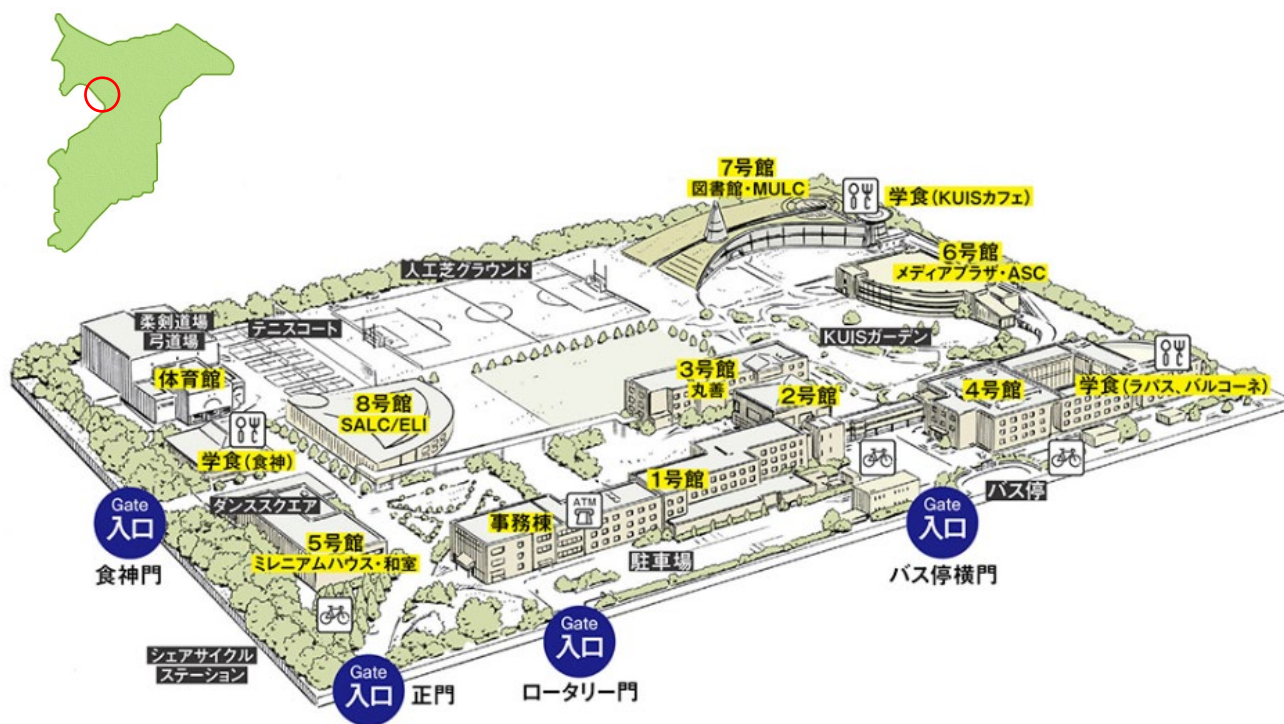
<https://sites.google.com/kandagaigo.ac.jp/kuis-factbook/>

（学生数、教員数、収容定員などのデータを掲載しています）

所在地

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1 神田外語大学

メール：officeir アットマーク kanda.kuis.ac.jp



<教育イノベーション研究センター IR 担当体制（2025 年 4 月 1 日より）>

教授 DX・IR 推進部門 ディレクター 田尻 慎太郎 <https://researchmap.jp/read0128413>

チーフ・専任職員 寺澤 岳生 https://researchmap.jp/takeo_terazawa

専任職員 村田 裕司

発行：2025 年 5 月 神田外語大学 教育イノベーション研究センター IR 担当

執筆（編集）・装丁（デザイン）：寺澤 岳生・村田 裕司